

地域の「話し愛・支え愛」推進事業 モデル地区事業 取り組み報告 (令和3年度～令和7年度)



令和8年3月



社会福祉法人 鳥取市社会福祉協議会

ごあいさつ



社会福祉法人 鳥取市社会福祉協議会
会長 林 由紀子

本会では令和3年度から令和7年度までの5年間、地域の「話し愛・支え愛」推進事業（重層的支援体制整備事業）の一環として、市内6地区において地域の皆さまとともに地域づくり事業に取り組んでまいりました。

本事業では、地域住民の皆さまが気軽に集い話し合う「しゃべり場（つどい場）」を起点に、人と人とのつながりを育てていきました。さらに、地域の課題の話し合いから活動につなぐ「ささえ場」、子どもから大人まで世代を問わず福祉について学び合う「まなび場」を設け、地域の力を再発見しながら、支え合いが循環する「支え愛サイクル」の構築を進めてきました。

取り組みを通じて地域で育まれた「話し合い、支え合う地域をつくる」という共通の思いは、今後も地域の中で循環し続けていくと確信しております。そして、地域づくりや支援の実践を積み重ね、次の世代へ引き継いでいくことが、私たちに求められています。

本会は『手を取りあって共につくる住みよいまちをめざして』の理念のもと、地域の皆さまや関係機関と連携し、この「支え愛サイクル」を大切にしながら共生社会の実現に向けて取り組みを進めてまいります。

結びに、本事業にご尽力いただいたすべての皆さまに深く感謝を申し上げますとともに、地域のさらなる発展と皆さまのご活躍を祈念しまして、5年間の地域づくり事業をまとめた報告書の発刊にあたってのあいさつといたします。

令和8年3月

本事業について

| | |
|-------------------------|----|
| 地域の「話し愛・支え愛」推進事業モデル地区事業 | 02 |
| 支え愛サイクル | 03 |

事業報告

| | |
|-------|----|
| 城北地区 | 04 |
| 湖南地区 | 18 |
| 明德地区 | 32 |
| 東郷地区 | 42 |
| 修立地区 | 54 |
| 美保南地区 | 68 |

本冊子についての出典・名称記載・表現についてのおことわり

基本情報の出典

本報告に用いられている統計情報は、鳥取市長寿社会課が介護保険の資格や介護保険の資格や要介護認定区分、介護給付等の管理を行うため運用する「MCWEL 介護保険システム」の保有する情報をもとに、一定の条件を設定して集計したものです。本市における高齢者の状態像を一定程度把握することを目的とするものですので、基準日を同じくする他の統計情報と必ずしも一致するものではありません。予めご了承ください。

団体名・機関名の記載

本文中において、団体名・機関名を略称を用いて記載している箇所がございます。略称と正式名称につきましては、下記をご参照ください。

| 略称 | 正式名称 | 略称 | 正式名称 |
|------|---------------|---------|----------------|
| 市社協 | 鳥取市社会福祉協議会 | 地区社協 | 〇〇地区社会福祉協議会 |
| まち協 | 〇〇地区まちづくり協議会 | 民児協 | 〇〇地区民生児童委員協議会 |
| 健推 | 健康づくり地区推進員 | サロン | ふれあい・いきいきサロン |
| 〇〇人権 | 鳥取市〇〇人権福祉センター | 〇〇包括 | 鳥取〇〇地域包括支援センター |
| 保健所 | 鳥取市保健所 | 東保健センター | 鳥取東保健センター |

共助という表現について

※「共助」は、使用する場面で意味に違いがあります。
 下記②として使用する場合、①の意味での「共助」は「互助」という言葉に置き換わります。
 ①地域やコミュニティといった周囲の人たちが協力して助け合うこと。
 出典：消防庁ホームページ
 (https://www.fdma.go.jp/relocation/e-college/cat63/cat39/cat22/4.html) より抜粋
 ②介護保険に代表される社会保険制度及びサービス。
 出典：厚生労働省ホームページ
 (https://www.mhlw.go.jp/seisakunitsuite/bunya/hukushi_kaigo/kaigo_koureisha/chiiki-houkatsu/dl/link1-3.pdf) より抜粋

地域の「話し愛・支え愛」推進事業モデル地区事業

鳥取市より委託を受け、令和3年度から令和7年度にかけて鳥取市社会福祉協議会がモデル地区を選定して実施した事業です。

また本事業は、鳥取市社会福祉協議会が地区と協働して取り組んだものです。

事業概要

身近な地域において、住民の福祉課題に気づき、情報を共有し、支え合う場づくりを進めるとともに、福祉に関する住民意識を醸成し、担い手を育成する基盤の構築を進め、地域における福祉活動の活性化を図る為の地域における福祉の「話し合い」「支え合い」の場づくりをモデル地区として選定した地区において支援し、地域で課題を解決する仕組みとして「支え愛サイクル」の構築と定着を図るものです。

支え愛サイクルと3つの“場”

以下の3つの場が連携し支え愛のサイクルが回ることで、地域におけるニーズや課題のすくい上げから話し合い、一体的解決を図ります。

しゃべり場（つどい場）

住民が気軽に話し合う場。属性・世代を超えて住民が交流し、心配ごと、困りごとを話し合える場。

ささえ場

しゃべり場が出た福祉課題について関係団体で話し合い、活動する場。

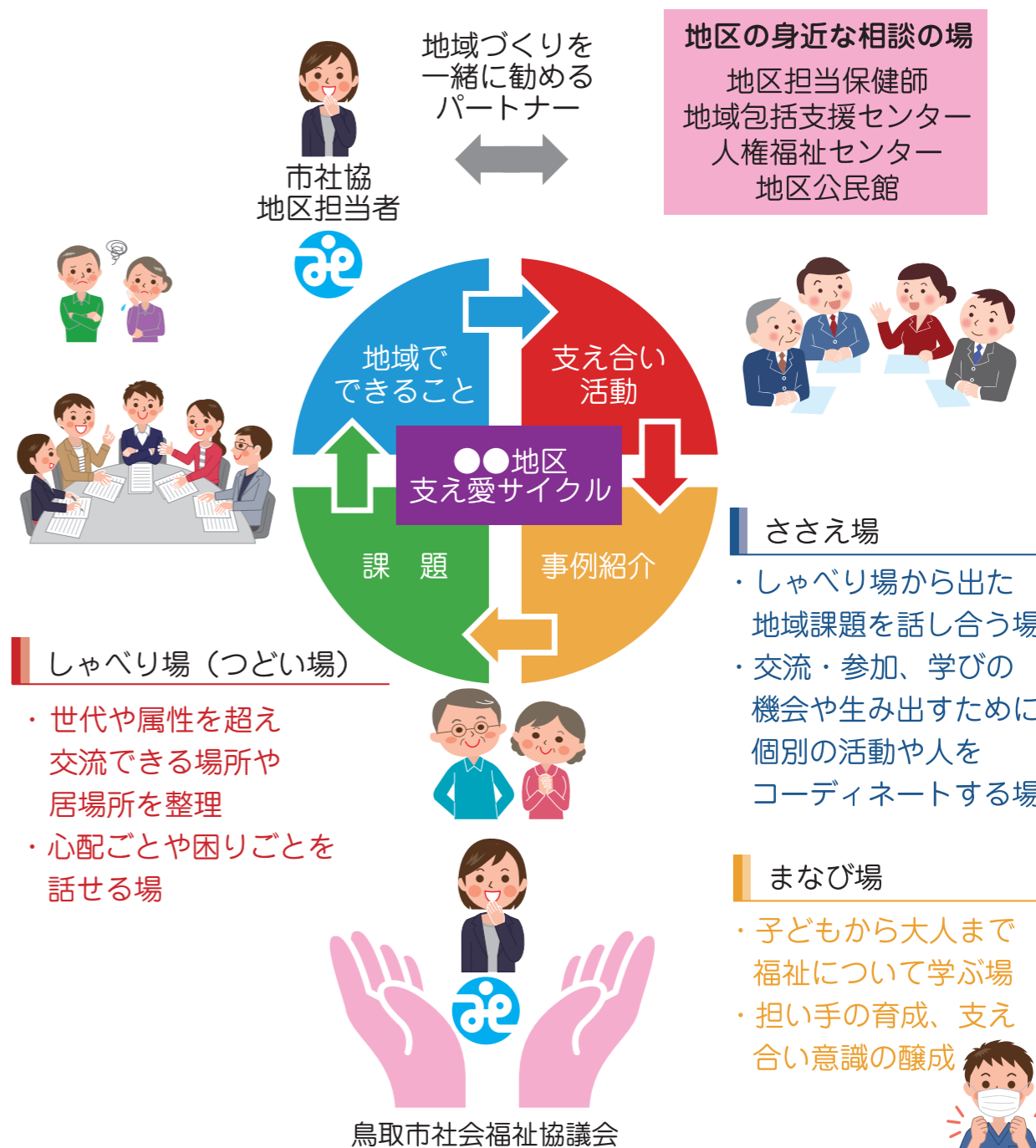
まなび場

子どもから大人まで福祉について学び、担い手の育成や支え合いの意識を高める学習の場。

モデル地区

| | | |
|-------------|-------|----------------|
| 令和3年度～令和5年度 | 城北地区 | (主体：まちづくり協議会) |
| 令和3年度～令和5年度 | 湖南地区 | (主体：地区社会福祉協議会) |
| 令和5年度～令和6年度 | 明德地区 | (主体：地区社会福祉協議会) |
| 令和5年度～令和6年度 | 東郷地区 | (主体：地区社会福祉協議会) |
| 令和6年度～令和7年度 | 修立地区 | (主体：まちづくり協議会) |
| 令和6年度～令和7年度 | 美保南地区 | (主体：まちづくり協議会) |

支え愛サイクル（全体イメージ図）



しゃべり場（つどい場）

- ・世代や属性を超え交流できる場所や居場所を整理
- ・心配ごとや困りごとを話せる場

ささえ場

- ・しゃべり場から出た地域課題を話し合う場
- ・交流・参加、学びの機会や生み出すために個別の活動や人をコーディネートする場

まなび場

- ・子どもから大人まで福祉について学ぶ場
- ・担い手の育成、支え合い意識の醸成

ささえ場

コーディネート、助言

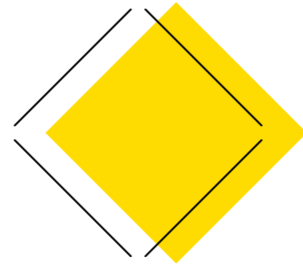
まなび場

学習プログラムの企画、運営補助、講師への依頼

しゃべり場（つどい場）

話し合いの場のコーディネート、地区の困りごとの吸い上げ、関係機関への報告や連携
地域に出かけ、住民の皆さまと活動

城北地区



城北地区まちづくり協議会

顧問 鈴木 伝男

このたび、城北地区が「地域の“話し愛・支え愛”推進事業」のモデル地区に選定され、地域住民一同にとって大きな励みとなりました。ご支援をいただいた行政関係の皆さま、ならびに活動を共にしてくださった鳥取市社会福祉協議会地域支え合い支援課の皆さまに心より感謝申し上げます。モデル地区に選ばれたことは大きな喜びであると同時に、地域の未来に責任を持って取り組む決意を新たにす契機ともなりました。

私たちは「支え愛サイクル」が循環する城北のまちづくりを理念に掲げ、誰もが住み慣れた地域で自分の能力を発揮しながら、自分らしく暮らしていける社会の実現を目指してまいりました。サービスの受け手と支え手という関係を超え、互いに助け合い、支え合うことで、一人ひとりの暮らしと生きがいを育み、地域全体を共につくり上げていく「地域共生社会」の実現に向けた取り組みです。

これまでの活動は、地域の自治連・まちづくり協議会など地縁団体や、社会福祉協議会等の機能的団体との連携によって支えられてきました。財源的な制約から諦めていた活動も、事業の見直しや発展的な企画立案を通じて実現可能となり、新たな展開へとつながりました。実際に、子ども用品リユース事業「よってみんなさい」や「城北マルシェ・おしゃべりカフェ」・「城北地区支え合いネットワーク（冊子：全戸配布）」・「あいさつ運動連携協議会」などの取り組みは、地域課題の解決に役立つだけでなく、住民同士の交流を深める場となり、孤立防止や世代間交流の促進に大きな手応えを感じさせるものとなりました。

今後も、地域の力を結集し、持続的に「支え愛サイクル」を循環させながら、誰もが安心して暮らせる城北のまちづくりを進めてまいります。他地区への広がりや持続可能な仕組みづくりにも期待を寄せ、地域共生社会の実現に向けて歩みを進めてまいります。

結びにあたり、これまでご協力いただいたすべての皆さまに改めて感謝申し上げますとともに、今後も「話し愛・支え愛」の輪を広げ、誰もが「住んでよかった」と実感できる城北のまちづくりを推進していくことをお誓い申し上げます。引き続き皆さまのご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

地区概要

数十年前は田んぼの地域。現日本海テレビの土地に、中井養豚場がありました。古くからある住宅地、新興の住宅地、近年ではマンションの建設などもあります。郊外型の店舗や卸売り団地など商業的にも多くの施設があります。さらに千代川や狐川が流れていることも大きな特徴です。



公民館

基本情報

人口

| | 令和3年3月 | 令和7年3月 |
|-------------|---------------|---------------|
| 総人口 | 7,133人 | 7,950人 |
| 14歳以下 | 1,220人 | 1,246人 |
| 15～64歳 | 4,348人 | 4,920人 |
| 65歳以上（高齢化率） | 1,565人（21.9%） | 1,784人（22.4%） |

世帯

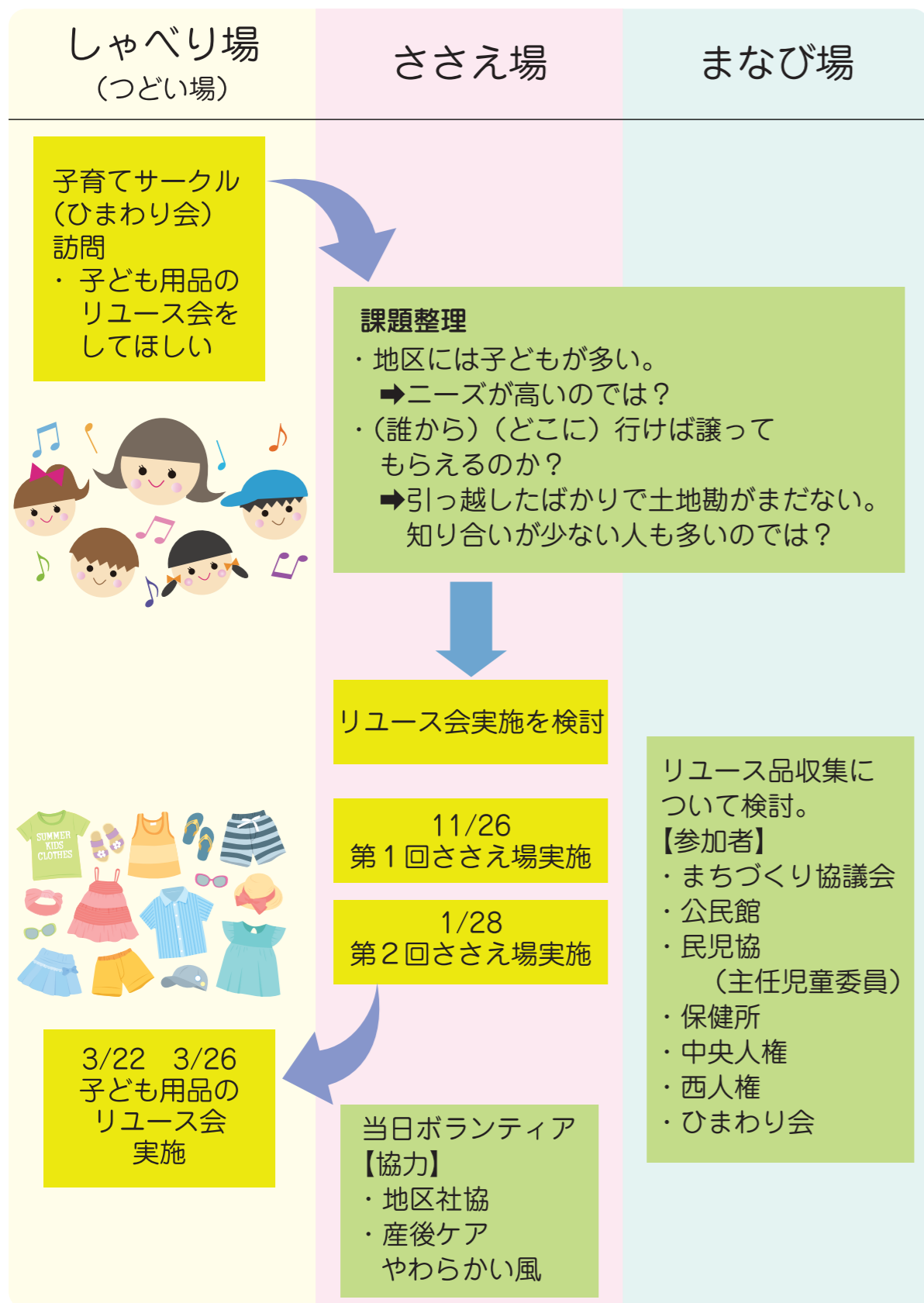
| | 令和3年3月 | 令和7年3月 |
|-----------|---------|---------|
| 総世帯数 | 3,060世帯 | 3,569世帯 |
| 高齢者のみの世帯 | 1,110世帯 | 1,287世帯 |
| うち高齢者単身世帯 | 423世帯 | 536世帯 |

その他

| | 令和3年3月 | 令和7年3月 |
|---------------|--------|--------|
| 要介護認定率（65歳以上） | 18.9% | 19.8% |
| 認知症有病率（65歳以上） | 16.0% | 15.9% |

支え愛サイクル

(令和3年度 リユース事業)



子ども用品リユース事業 【令和3年度】

経緯と準備

子育てサークル訪問で意見交換の際、「不要になった子ども用品を譲ってくれないだろうか？」という子育て世代のお母さんからの要望があり、まちづくり協議会主体として実施しました。

リユース事業を行うにあたり、不要になった子ども用品や絵本などのリユース品を集めるチラシを城北地区全戸に配布しました。その結果、24名から服だけでなく、おもちゃや絵本、チャイルドシートなどたくさんの物品の寄付をいただきました。その後ボランティアスタッフと一緒に服をサイズごとに仕分け、当日手にとってもらえるよう、きれいにハンガーに掛けたり、たたんだりしました。



回収を周知するチラシ

子ども用品受付 (令和4年1月 公民館)



公民館の協力をいただき、計6日間物品回収の日を設けました。この期間に子ども服200点以上、絵本やおもちゃなど150点以上の寄付をいただきました。

仕分けの様子 (令和4年2月 さざんか会館)



ボランティアスタッフが、子ども服をサイズや季節ごとに仕分けしました。リユース会に参加される方に服や物品が見えやすく、手に取ってもらえるように準備をしました。

リユース品譲渡会「よってみんなさい」

期 日：令和4年3月22日（火）
3月26日（土） 計2日間
場 所：公民館
参加者：地区住民の皆さま

感染症拡大予防対策から、整理券を配布し入室人数、時間に制限を設けつつ、2日間実施しました。延べ70組以上の来場があり、多くの方々が参加されました。希望者が殺到し、予定していた入場人数を上回り、会場に入場できない方がでてしまう程の盛況でした。SDGsの観点や福祉を基軸にした「城北のまちづくり」に携わることができました。



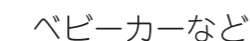
リユース会チラシ



当日のにぎわう会場



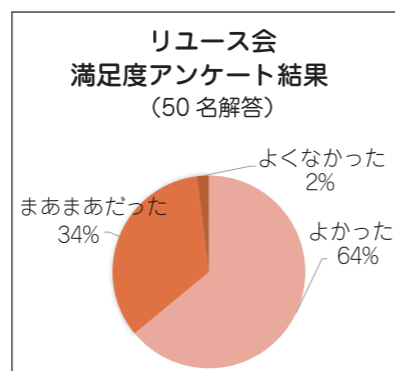
こども服



ベビーカーなど

アンケート結果・振り返り

- ・リユース会に来ていた参加者に満足度調査を行い、概ね好評でした。（右図アンケート結果参照）
- ・アンケートの中には、待ち時間が長かった、品数を増やしてほしいという意見等もありました。

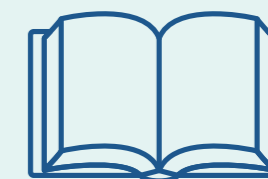
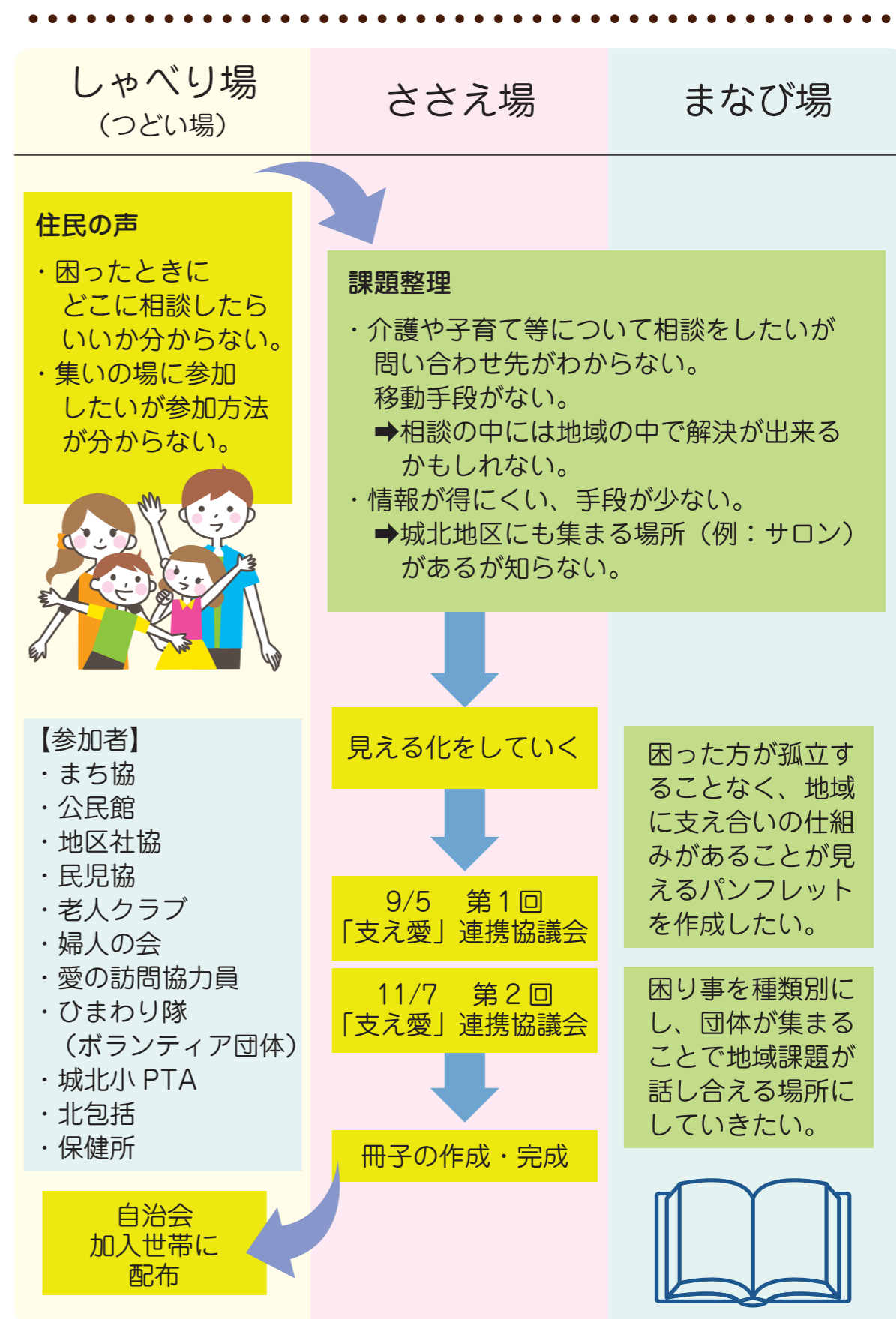


課題と解決策

- ・今回のリユースで余った服やおもちゃについてどうしていくのか。
 - ➡城北地区のマルシェで再度リユース会場を設ける。
 - ➡城北こども園など今後リユース会を開催する所に譲渡していく。

支え愛サイクル

(令和4年度)



支え合いネットワーク冊子作成【令和4年度】

経緯

令和3年度に育児サークル参加者の声からリユース会を開催しましたが、サロン等の地域の集い場に行った時に「困ったときにどこに相談をしたらいいかわからない」「地縁団体がどのような活動しているのかわからない」「集いの場に出たいが参加の方法が分からない」といった声を聞くことができました。

このような声は団体役員の中でも把握している内容でしたが、相談を受けてもどこに連絡をしたらいいのかわかりにくいという声もありました。

当時、コロナ禍の影響を受け、コミュニティの希薄化を招き、地域の支え合う力が弱まってしまいう懸念がありました。そこでお互い様の精神で隣人の困りごとに気づき、少しの手助けや気配りで、困っている隣人を支え合えるまちづくりを目指し、城北地区に特化した相談先一覧のパンフレット（冊子）作成に至りました。パンフレット（冊子）には、城北地区にある地域の困りごとの相談先、集いの場、活動している各種団体一覧を掲載しました。

支え愛連携協議会（ささえ場）

冊子作成にあたり、地域団体の役員や北包括や保健所等と一緒にどのような内容を掲載していくのが検討しました（支え愛連携協議会発足）。

会の中では地区内の自治体加入世帯に配布をしていくにあたり、高齢者・障がい者・児童等、世代・分野を問わず活用できるもの、また地区内に転入してくる世帯も多い為、城北地区のことを知ってもらう為、地区の情報も多く取り入れていきたいという意見が出ました。

- ・ 様々な分野の連絡先として公的機関の代表的な連絡先を掲載。
- ・ 地区にある保育園や育児サークル、就労支援作業所、集いの場としてふれあい・いきいきサロンや城北ふれあい教室、移動スーパーのとくし丸の情報を掲載。
- ・ 災害が起きたとき避難場所が分かるように、地区で作成されている災害時の“支え合いの避難”の手順や避難所マップを掲載。



表紙

他にも――

城北地区では23団体が活動していますが、支え愛連携協議会の参加者から各団体が行っている活動について知らないという意見もありました。そのため、団体の活動内容を掲載することになりました。

掲載にあたり団体紹介の文面をすべての団体に依頼し、作成していただきました。

公的連絡先

※相談時間について、掲載のない場合は、平日8:30～17:15です。
 ※休業日について、記載のない場合は、土日祝日・年末年始は、お休みです。
 ※市外局番について、0120を記載の電話番号以外の電話番号は、市外局番0857を省略しています。

子どもに関する相談

子育て相談ダイヤル
 子育ての不安や悩みについて
 鳥取市 健康こども部 こども家庭相談センター ☎36-0505
 鳥取市保健所 健康・子育て推進課 ☎20-3203

鳥取ファミリー・サポート・センター（育児型）
 （さざんか会館1階） ☎39-2761
 保育園・幼稚園・放課後児童クラブへの送迎、開所前・閉所後の預かり、乳幼児を連れて出かけにくい時の預かりなど

障がい者に関する相談

鳥取市 福祉部 障がい福祉課
 （市役所本庁舎1階） ☎30-8217

鳥取市基幹相談支援センター
 （さざんか会館2階） ☎22-0678
 障がいのある方の福祉に関すること

高齢者に関する相談

鳥取北地域包括支援センター
 （北デイサービスセンター内） ☎20-2205
 介護、介護予防、医療、福祉、生活、虐待、権利擁護に関する相談

北第1地域福祉相談センター
 （北デイサービスセンター内） ☎20-2616
 福祉に関する相談を一旦受け止める
 相談時間：8:30～17:30（土日を除く）

鳥取ファミリー・サポート・センター（生活援助型）
 （さざんか会館1階） ☎22-7474
 高齢者のお宅を訪問して、軽度で専門性を要しない簡単な家事など

警察への相談

警察総合相談電話 24時間対応 ☎9110 (27-9110)
 または鳥取警察署か、お近くの交番・駐在所にご相談ください。

地区内連絡先

※市外局番について、0857を省略しています。

子ども・子育て

城北保育園（さとに会） ☎54-1911
 時間：9:00～17:00（日・祝日を除く）

じょうほく子育て支援センター（城北保育園内） ☎54-1912
 開所時間：9:30～12:00 / 13:00～15:30
 （土日祝日、お盆、年末年始を除く）
 ※12:00～13:00は施設内の消毒のため、閉所します。

ひまわり会（育児サークル） ☎26-3997
 場所：城北地区公民館
 日時：週1回 10:00～11:30

城北ジュニアサポーター（JJS） ☎26-3997
 小学生～大学生対象で、地域の行事への参加や納涼祭への出店、他地域との交流や体験活動などを行っています。

障がい者（就労継続支援事業所）

夢工房つぼちゃん（B型） ☎51-1180
 場所：松並町1丁目382番地1
 時間：10:00～15:00
 （土日祝日、お盆、年末年始を除く）

NPO法人さざんか作業所（B型） ☎27-3665
 場所：田島614
 時間：9:00～15:00
 （土日祝日、お盆、年末年始を除く）

NPO法人フェリス（A型、B型） ☎50-1958
 場所：南安長1丁目1-29
 時間：平日・土日祝日 9:00～17:00
 （年末年始を除く）

ばにーに（B型） ☎54-1212
 場所：田島町3丁目335-2
 時間：8:00～18:00（日、1月1日を除く）

就労支援センターびよんびよん（B型） ☎22-9122
 場所：秋里970-1
 時間：9:00～16:00
 （土日祝日、お盆、年末年始を除く）

団体紹介

団体名 ①構成員 ②組織の性格・活動内容
子ども・障がい児・高齢者・健康・生活

城北地区は、21の町内会で構成されています。各町内から選出された役員が中心となったテーマごとの団体（組織）と、有志が集って活動する団体が、個々の強みを活かして活動し、「元気で 楽しく 心地よく住んでいよう」という共通の目標を掲げ、城北地区の発展に「まちづくり」を推進してきました。

団体に関するお問い合わせは、地区公民館（☎26-3997）にお尋ねください。

自治連合会

①町内会長
 ②城北地区を代表する中核となる団体です。行政とのパイプ役として活動し、市も、その活動を支援しています。住民同士のつながりを深める活動や、地域におけるさまざまな課題の解決に向けて幅広く取り組んでいます。

社会福祉協議会

①町内会長＋各種団体代表者＋有志
 ②城北地区の社会福祉活動を代表する中核となる団体です。公民館内の福祉相談室を拠点に活動しています。社会福祉協議会も、その活動を支援しています。暮らしに関する住民からの困りごとの相談・福祉事業を幅広く展開しています。

まちづくり協議会

①町内会長＋各種団体代表者＋有志
 ②住民の視点で地域課題を検討し、公民館を拠点として地域が一体となって課題解決に向けて取り組むための連携を促す組織です。市も、その活動を支援し、参画と協働のまちづくりを推進しています。

防災対策協議会

①自主防災会長＋各種団体代表者＋有志
 ②いつ起きるか分からない災害に備え、地域防災力を高める団体です。防災に対する知識・技能等の啓発と、災害時の避難等のあり方を検討し、訓練を通して地域住民の安全・安心を担保する事業を展開しています。

城北校区体育会

①町内会長＋町内会体育会理事＋有志
 ②城北校区住民相互の親睦を体育振興を通して図る団体です。各種スポーツ大会の実施、指導者の養成、市民体育祭への参加など幅広く事業展開しています。

避難所マップ

城北地区内マップ

指定緊急避難場所

※避難所については、その都度確認ください。

| 名称（町内） | 洪水 | 地震 | 津波 |
|---------|----|----|----|
| 城北体育館 | ○ | ○ | ○ |
| 城北地区公民館 | ○ | ○ | ○ |
| 城北小学校 | ○ | ○ | ○ |

| 名称（屋外） | 地震 | 津波 | 土砂 | 火災 |
|--------------|----|----|----|----|
| 田島公共空地 | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 田島第1公園 | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 秋里下水終末処理場 | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 秋里1号公園 | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 城北公園 | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 城北テニスコート | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 城北小学校（グラウンド） | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 青葉公園 | ○ | ○ | ○ | ○ |

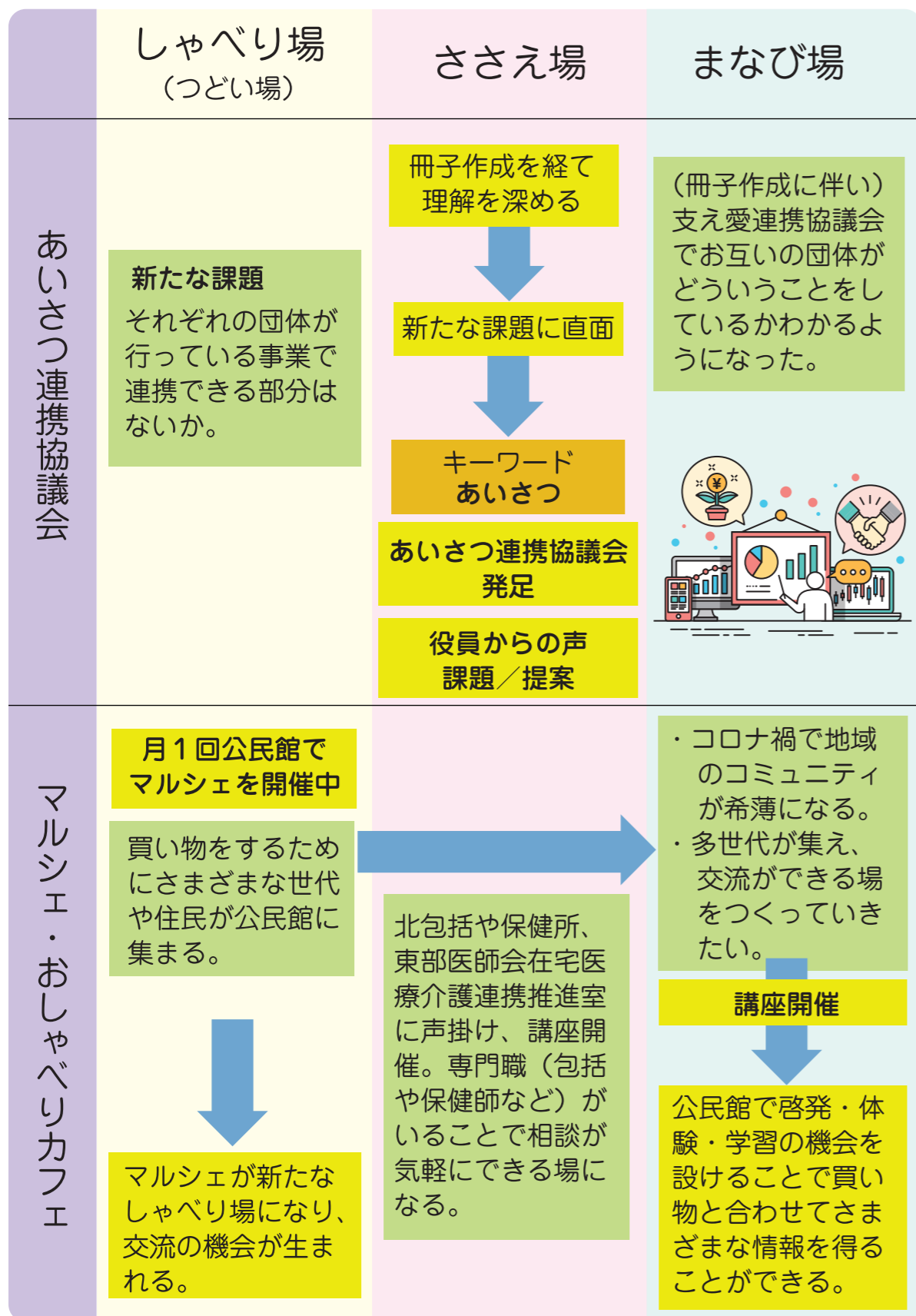
発行元 城北地区「支え愛」連携協議会 ☎26-3997（城北地区公民館）（令和5年3月1日現在）
 ※ただし変更になることがあります。

取組みの成果

地域の各種団体や関係機関が集まり、それぞれの意見や思いを共有しながら一緒に冊子作成に取り組み、住民の方々へ配布できたことは大きな成果となりました。この冊子をきっかけに地域活動（イベント）やサークルに参加して顔見知りになり、あいさつが交わせる関係をつくることができ、「いざという時」「困った時」に助け合える関係や地域課題（困りごと）の解決に向けて話し合う場所ができるきっかけ作りになると思いました。

支え愛サイクル

(令和5年度)



あいさつ連携協議会【令和5年度】

経緯

冊子作成に伴い、様々な団体が参加した支え愛連携協議会が立ち上がり、会の中で意見交換をしていくうちに、各団体が行っている活動をより理解できるきっかけになったと感じました。

また、今まで各団体が単独で活動していた事業も、連携することによって、相乗効果を生み、効率的に事業の成果が期待できるのではないかと考えるようになりました。

その一つとして出てきたものが「あいさつ」でした。

あいさつは、基本的な生活習慣の一つであり、人と人のコミュニケーションや信頼関係の構築に重要な役割を果たしています。また、あいさつがきっかけとなり、これまで関わりの薄かった知人や住民との関係を深めたり、新しい出会いや発見があることで、社会生活における生き甲斐を高めることも期待ができると考えました。

当時それぞれの団体が曜日や期間、通学路であいさつ運動に取り組んでいて、子どもたちを含め、安心安全な通学・通勤をしてもらう目的で活動をしていました。今後はあいさつを通して地域のコミュニケーションが活性化できると考え、まずはあいさつ運動をしている団体に集ってもらい、普段の活動についての情報共有をしてもらう機会を作りました(あいさつ連携協議会の発足)。

あいさつ連携協議会

| | |
|------------------|----------------|
| 開催日 | 参加団体 |
| 第1回 令和5年6月15日(木) | ・まち協(文化・交流部会) |
| 第2回 令和5年11月7日(火) | ・民児協 ・小学校 ・PTA |
| 第3回 令和6年2月27日(火) | ・婦人の会・青少年育成協議会 |

経過・活動

- ①「あいさつ運動」のシンボルマーク
- ②「あいさつ運動」の川柳を募集することを決定

のぼり旗、横断幕を掲げて街頭キャンペーンを実施



- 協力団体
- 【学 校】 保護者、教師、児童会
 - 【地 域】 個人(賛同者)、民児協、町内会役員、愛の訪問協力員
となり組福祉員、福祉推進員、まち協(文化・交流部会)
 - 【その他】 通学路沿いの企業、事業所 等

城北あいさつ川柳

「あいさつ」をテーマに、心が“ほっこり”するような“くすっ”と笑顔になるような川柳を募集しました。

公民館や小学校で1ヶ月間募集を行い、129名から川柳の応募がありました。その後、すべての句を公民館に掲示し、この中から優秀賞を決めました。



【優秀賞（一部抜粋）】

あいさつを 交わす笑顔に 福来る
 あいさつは 感謝も伝える 合言葉
 このまちを元気にしたい あいさつで
 城北地区 老若男女で あいさつを

シンボルマーク



「あいさつ運動」のシンボルマークも募集したところ73点の応募がありました。

応募があった原画を使い、のぼり旗（左図）、横断幕（下図）を作成しました。

のぼり旗・横断幕は各団体があいさつ運動をする際に使用し、また地区内の通学路沿いにある企業、事業所、店舗等にも協力していただき、地区全体であいさつ運動に取り組みました。



横断幕（公民館前に掲示）

取組みの成果

川柳やシンボルマークを募集し、形の残る物を作成したことであいさつへの関心が増えたと思います。また、それぞれの団体の取り組みについて情報共有ができたことも成果だと思いました。

あいさつを通して、子どもも含めた見守り体制が強化し、顔なじみができることで自分の周りに話ができる、しやすい人がいるという環境づくりができ、孤独・孤立を防ぐことにつながれば良いと感じました。

城北マルシェ（おしゃベリカフェ）【令和5年度～】

期 日：5月～12月の毎週第4金曜日

場 所：公民館

参加者：地域住民の皆さま

城北地区公民館で毎月行っているマルシェでは様々な方が野菜やお昼ご飯を目当てに集まっています。

しかし、買い物だけをして帰ってしまうのはもったいないということで、マルシェが開いている時間帯に、様々な啓発を行う時間や相談場所を設けました。



マルシェの様子



フレイル予防講座の様子

啓発では各関係機関が交代で地域のニーズに沿った講座を行っています。マルシェを開催している時間帯に専門機関が常駐することで公民館に身近な相談窓口があるということを知っていただいています。

また、当日の講座の案内チラシを作成することで、地区住民に周知を行っています。



令和5年度 講座

| 期日 | 内容 | 協力機関 |
|-----------|---------------------|----------------------|
| 6月23日(金) | 介護保険とサービスの種類について | 鳥取北 地域包括支援センター |
| 7月28日(金) | こどもの熱中症予防について／プチ夏祭り | 鳥取市保健所 |
| 8月25日(金) | 認知症について知り、支え合おう | 鳥取北 地域包括支援センター |
| 9月22日(金) | フレイルってなんだろう？ | 鳥取市保健所 |
| 11月24日(金) | もしもの時のわたしの心づもり | 東部医師会 在宅医療介護連携推進室 |
| 12月22日(金) | 骨密度測定してみませんか？ | 鳥取北 地域包括支援センター |

令和6年度 講座

| 期日 | 内容 | 協力機関 |
|-----------|-----------------------------|----------------------|
| 5月31日(金) | 保健師によるなんでも健康相談 | 鳥取市保健所 |
| 6月28日(金) | 0・1歳児との交流 | 城北子ども園 |
| 7月26日(金) | 物忘れチェックをしてみませんか? | 鳥取北 地域包括支援センター |
| 9月27日(金) | eスポーツを楽しもう! | 鳥取市社会福祉協議会 |
| 11月22日(金) | もしバナゲーム ～もしもの時のわたしの心づもり～ | 東部医師会 在宅医療介護連携推進室 |
| 12月20日(金) | 災害時に備えて ～最新の非常食を知ろう～ | 株式会社 吉備総合電設 |

おしゃべりカフェ

期 日：講座開催後 11時～12時
場 所：公民館屋外（雨天時：研修室）

買い物に来られた方の集いの場としてゆっくり楽しくおしゃべりしていただく事、また生活で感じておられる不安や悩みを気軽に専門員に相談できるスペースとして設けました。

夏季は猛暑の為に室内開催でしたが、春・秋の開催時は屋外にブースを設け、買い物の帰りがけにふらっと寄られて飲み物を飲まれながら少しお話をされたり、購入されたものを一緒に食べられたりなど、皆さまの憩いの場となっています。



取組みの成果

公民館を利用し、身近に様々なことが学べる場所、相談できる場所が構築できればと思い取り組みを行いました。

今後は高齢者・障がい者・児童、様々な住民が興味・関心がある事を考えつつ、マルシェの時間、場所を利用し住民主体で集う場・学ぶ場がさらに発展していけばと感じました。



モデル地区事業を通して

地区担当者コメント

令和4年からの2年間城北地区を担当させていただき、最初はどういう地域の方と関わればいいのか、ニーズを把握し地域の方々と一緒に進めていけばいいのか悩む日々でした。

モデル地区1年目には、前任者がサロンや育児サークルなど集いの場に訪問し、地域の声を集めリユース会の開催をしました。

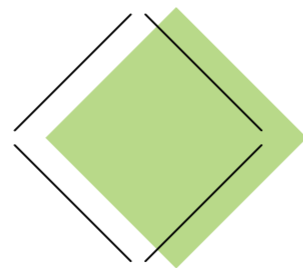
2年目には地区内の支え合いの仕組みや相談先、集いの場といった城北地区に特化した冊子の作成を行いました。23ある城北地区の各団体の方々や関係機関が集まり、より良いものを作り上げるために話し合いを重ねました。そして、自治会加入者に全戸配布し住民の方に届けることができたことは担当者としてうれしく思いました。

最後の年は、定常的に集まれる場を今あるマルシェと合わせた開催や団体が連携してあいさつ運動に取り組むことで地域の方々との顔の見える関係、相談しやすい環境づくりに向けてあいさつ運動の取り組みに力をいれて、まち協をはじめとする地域団体の方々と一緒に取り組んできました。

集いの場や会議で地域に伺うたびに優しく声をかけてくださったり、時には鋭い意見もありましたが、皆さまが地域の為、住民の方々の為を思って向かっている先は同じだということを感じています。当初は不安もありましたが、笑顔で温かく迎えてくださる城北地区の皆さまとともに取り組んできた数々の経験、得た知識をもとにさらに素敵な城北地区と一緒に考えていけたらと思います。



湖南地区



湖南地区社会福祉協議会

会長 那和 克俊

集落の中で人を見かけることが1週間で何日あるだろう、少子高齢化は集落の祭りや行事をすたれさせ農地の荒廃、空き家の増加にもつながってきた。

『コロナ』が人と人のつながりを分断し劇的に社会生活を変えたように思ったが、単に時の歯車を少し早めただけかもしれない。

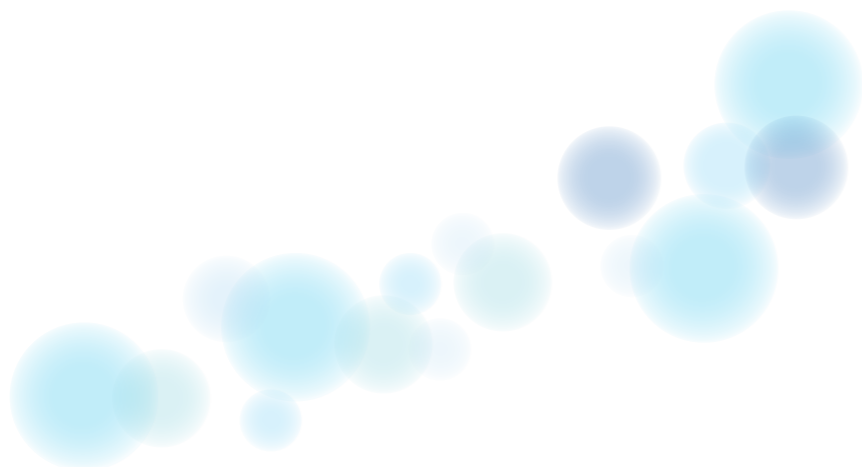
この事業に携わって「話し合い・集いの場」が極端に少なくなってきたこと、改めてその重要性に気づかされました。

令和2年に発足した『しゃべり場いずみ』は、昔の井戸端会議的な自由に何でも話し合える場を作ろうと始めました。世間話し、個々の悩みや共通の話題から地域全体のことなど・・・

人と人が繋がる場を作ろう、孤立をなくしよう、ひとりの「困った」は将来地域の「困った」にもなりうるということで「しゃべり場」で出てきた共通の課題は地域全体で考えることにしました。

自治会、公民館、保健所、高草地域包括支援センター、中央人権福祉センター、地元の福祉施設の方にも参加していただき、専門家の立場でのアドバイス、個別の相談にもその場で乗っていただきました。(詳細は後記に)

これからもこのような集いの場を通じ人と人のつながりができ、そこから新たなサロンやサークルの立ち上げにもなってくれば「話し愛・支え愛」サイクルの輪が回りだす。市社協とともにその輪に風を吹き込めたらと思います。



地区概要

湖南地区は大郷地区と吉岡地区が統合した地区で、鳥取市中心部より西に10 kmほどの湖山池の南に位置し、北東に向かって縦向きに長い地区です。

地区の中心を長柄川が走っており、初夏には紫陽花が咲くアジサイロードを中心にホタルが飛び交います。鳥取藩主も湯治に訪れたと伝わる名湯「吉岡温泉」が湧き出る温泉地としても知られ、温泉街の中心部には源泉かけ流しの足湯も設置されています。

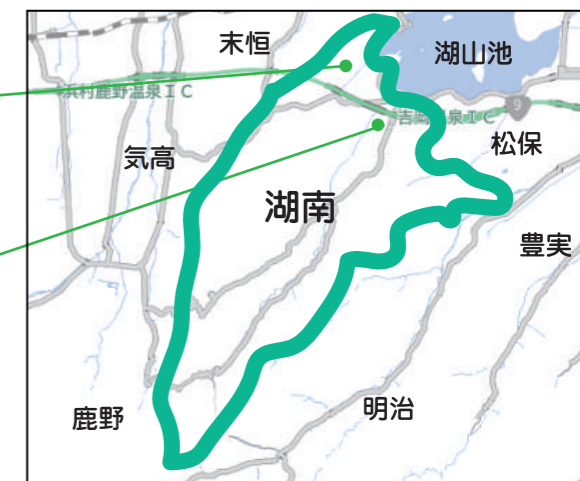
観光地としても人気を集める一方で、大雨の際には中山間部の法面が崩れたり、吉岡温泉街の川が氾濫する事例が報告されるなど水害への不安もある地域です。



湖南分館 (大郷会館)



湖南地区公民館



基本情報

人口

| | 令和3年3月 | 令和7年3月 |
|-------------|-------------|-------------|
| 総人口 | 1,928人 | 1,821人 |
| 14歳以下 | 176人 | 163人 |
| 15～64歳 | 915人 | 822人 |
| 65歳以上(高齢化率) | 837人(43.4%) | 836人(45.9%) |

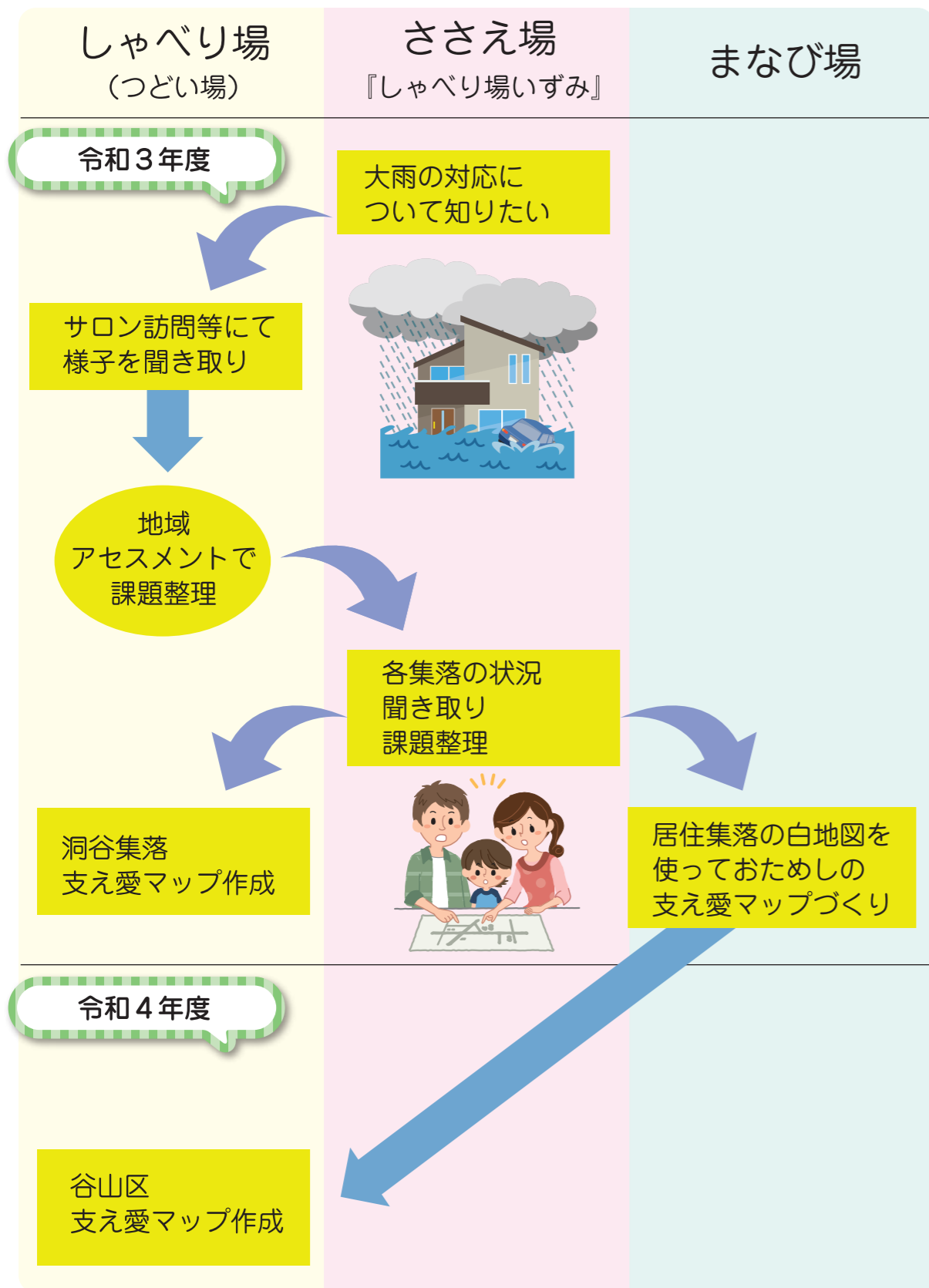
世帯

| | 令和3年3月 | 令和7年3月 |
|-----------|--------|--------|
| 総世帯数 | 828世帯 | 826世帯 |
| 高齢者のみの世帯 | 372世帯 | 401世帯 |
| うち高齢者単身世帯 | 219世帯 | 249世帯 |

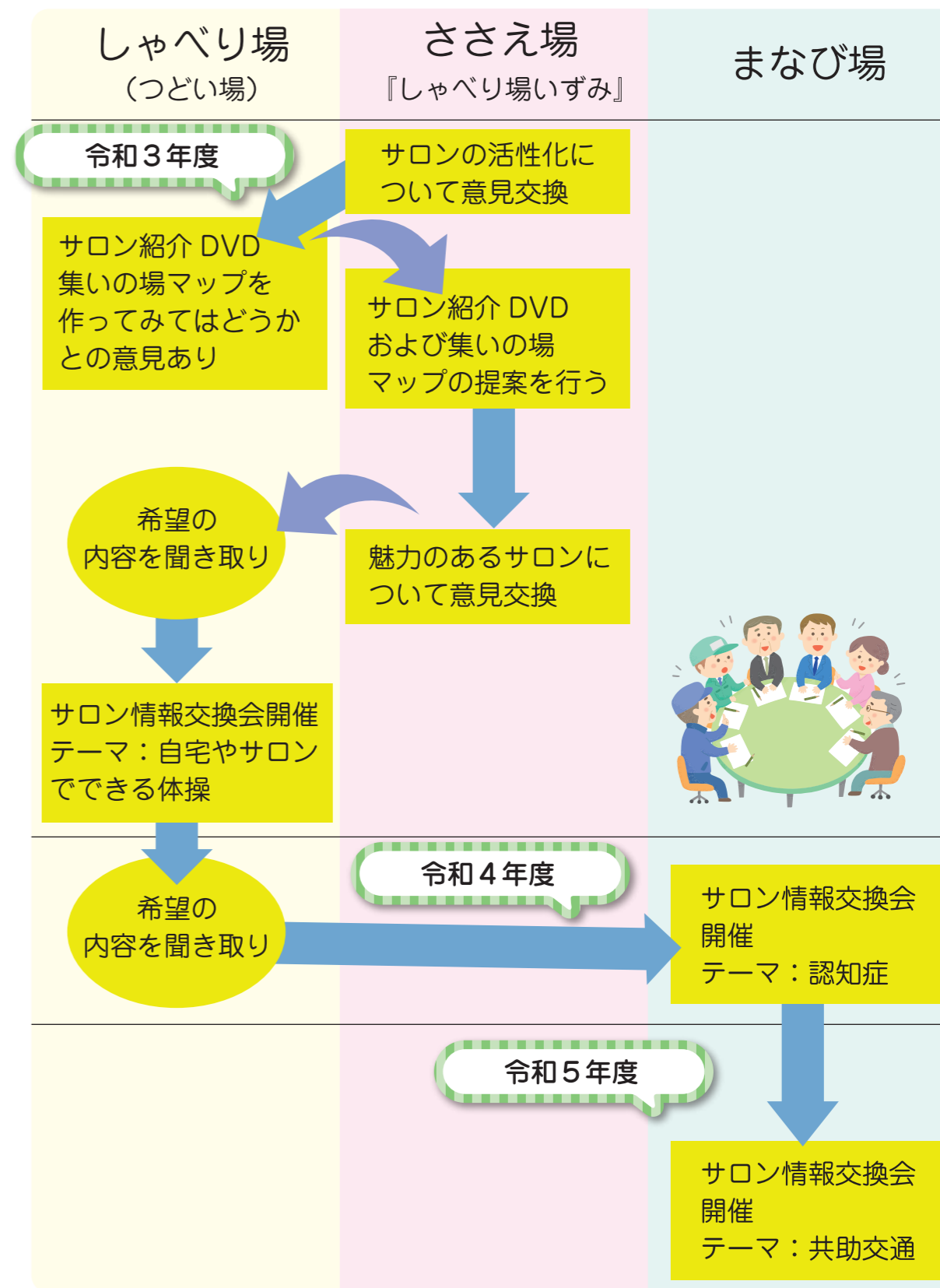
その他

| | 令和3年3月 | 令和7年3月 |
|---------------|--------|--------|
| 要介護認定率(65歳以上) | 21.9% | 22.1% |
| 認知症有病率(65歳以上) | 18.8% | 18.9% |

支え愛サイクル (防災)

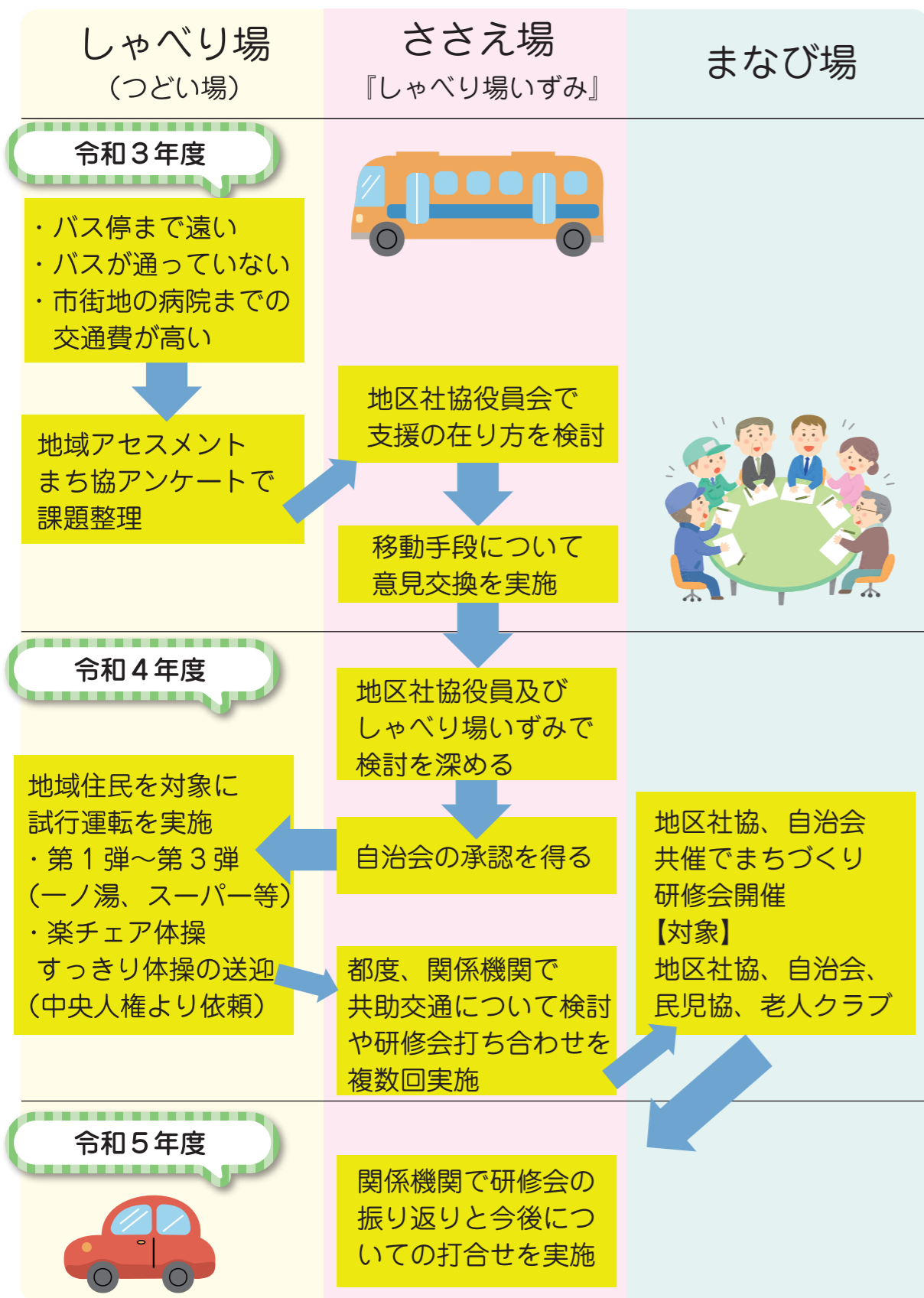


支え愛サイクル (サロン情報交換会)



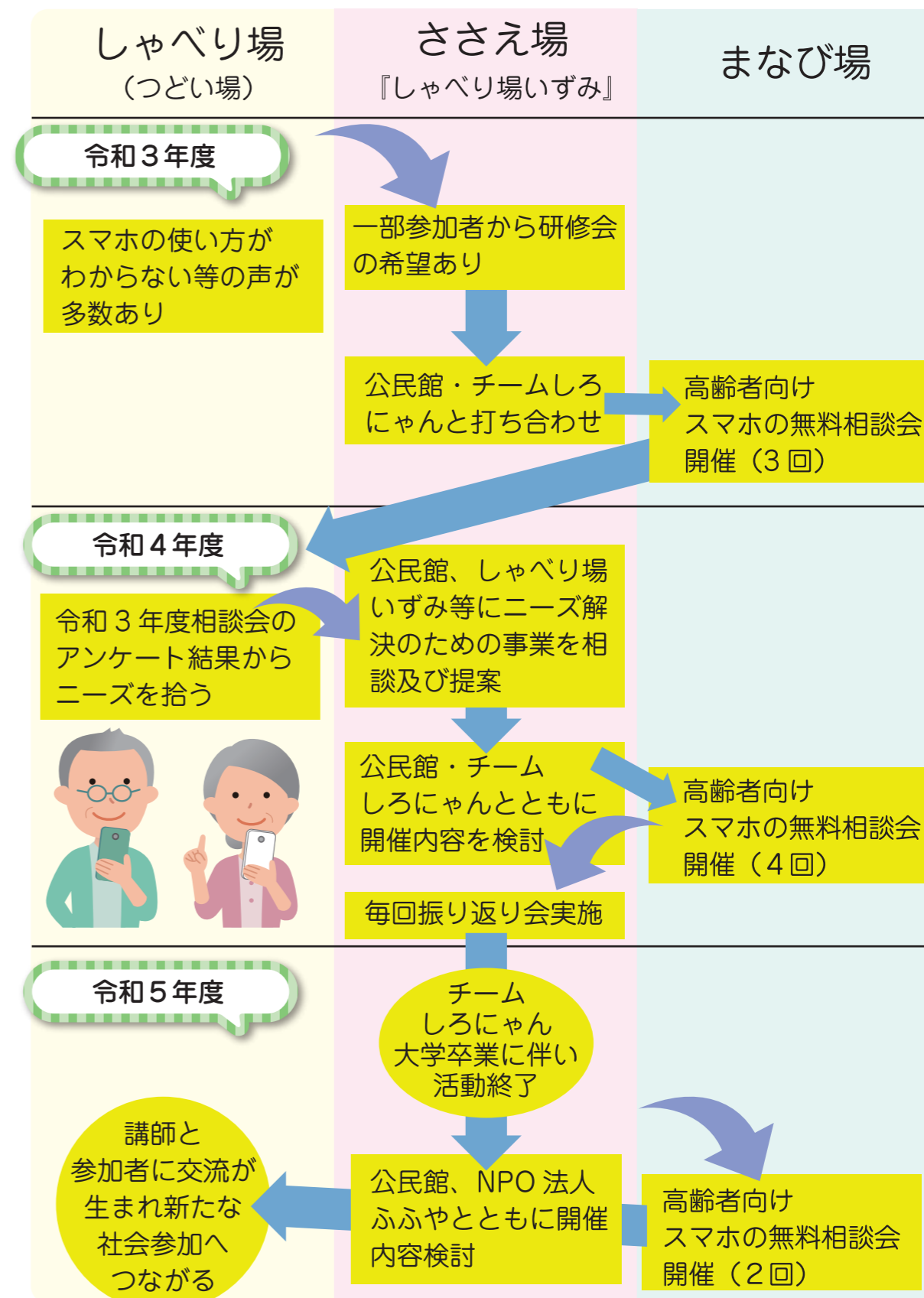
支え愛サイクル

(移動手段、共助交通)



支え愛サイクル

(スマホ相談会)



しゃべり場いずみ

しゃべり場いずみて…?

年を重ねてもずっと大好きな湖南地区で暮らしていくため、みんなで楽しく地域づくりについて話し合う場所です。

“いずみ”という名称は「温泉が湧き出るように、みんなでたくさん意見を出し合って話していこう」という住民の皆さまの想いからつけられました。

令和2年に発足し、令和5年5月まで2ヶ月に1回開催してきました。

そして、より湖南地区にあった形での開催にむけた準備期間として令和5年7月～翌年1月まで休止し、同年2月に第20回を開催したのち、3月に新たな形でスタートしました。

令和2年“しゃべり場いずみ”発足



前身の“湖南でしゃべり場”にて「湖南地区に必要なと思う活動」について意見交換を行いました。

「まずは地域のことをみんなで話し合う場が必要」ということで、話し合ったことを皆で協力して実現していくために、しゃべり場いずみが発足しました。

活動の歴史

2ヶ月に1回、奇数月に開催。多くの住民、地域団体、福祉・保健の関係機関が集まり「集いの場」「災害」「移動・外出」「湖南地区の良いところ・心配なところ」など様々なテーマに沿って話し合いを行ってきました。



発足後、まずは「集落ごとにサロンをつくるには?」「魅力的なサロンってなんだろう?」と集いの場についての意見交換を行いました。

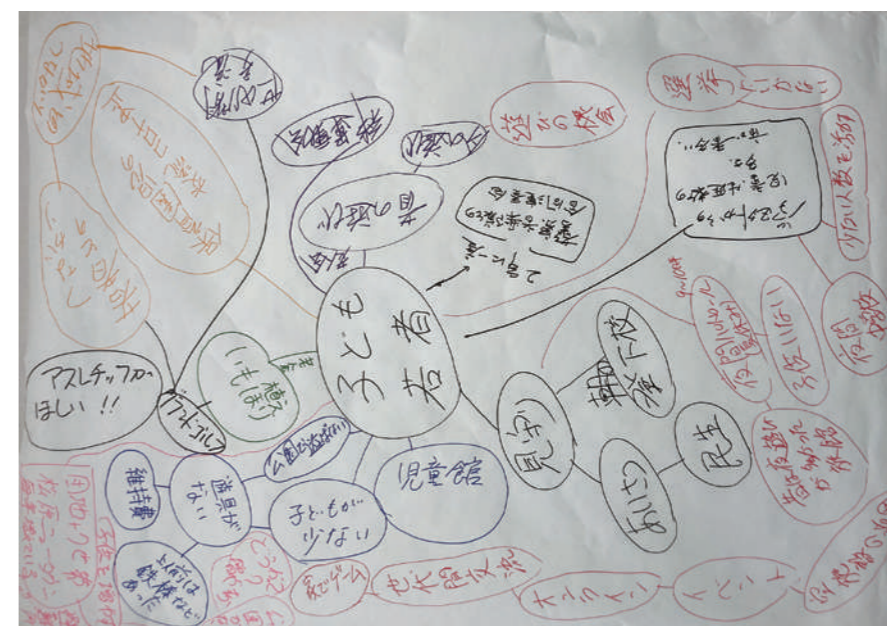
そして「どんなきっかけでサロンをつくったんだろう?」「当事者同士で交流をしてみてもいい」「いろいろなサロンをみてみたい」といった疑問やお声から、サロンの活性化やつながりづくりを目的に第1回サロン情報交換会を開催しました。

第10回～12回ではこの年の“7月にあった豪雨”について、不安に感じたことや心配だったことを共有したところ、災害について沢山の疑問や不安の声があがりました。そこで、地域の防災と日頃からの地域のつながりをみんなで考えるきっかけとして“支え愛マップ作り”を体験し、集落での実践にもつながりました。



第16回・17回では“湖南地区の良いところと心配事”について現在と未来をイメージしながら「こども・若者」「交流」「災害」の3つのカテゴリーに分けてアイデアツリーを作成しました。地区に必要なものや自分達にできることなどを話し合い、こどもの減少や災害といった心配事について、こどもたちが楽しく過ごすための環境づくりや災害対策、交流のきっかけづくりなど様々なアイデアが生まれました。

アイデアツリー（こども・若者）



心配事や解決するためのアイデアを、連想ゲームのように模造紙に書き出しました。

試行運転の実施（令和4年度）

湖南地区住民対象の共助交通事業について

現在、湖南地区社会福祉協議会で実施している「高齢者配食サービス」と同じ形態で、『交通サービス』の実施を考えております。つきましては、実施試験として「お試し買い物コース」を実施いたしますので、ご参加いただき、ご意見・希望訪問先・希望時間帯・料金等今後の本格実施に向けアンケートのご協力よろしくお願い致します。

買い物コース

【第1回】7/0()
 9:00~9:30 9:45~10:00 10:15~10:45 10:50
 ◎自宅玄関先 ⇒ ノゾ ⇒ 湖山Sマート ⇒ 湖山サンマート
 11:35 11:50~12:05
 ⇒ ノゾ ⇒ ご自宅玄関先

【第2回】7/0()
 9:30~9:30 10:00 10:15~10:45 10:50
 ◎自宅玄関先 ⇒ ノゾ ⇒ 湖山サンマート ⇒ 湖山Sマート
 11:35 11:50~12:05
 ⇒ ノゾ ⇒ ご自宅玄関先

【第3回】7/0()
 ◎自宅玄関先 ⇒ ノゾ ⇒ 希望スーパー① ⇒ 希望スーパー②
 ⇒ ノゾ ⇒ ご自宅玄関先

予約から当日までの流れ

①予約 ②受付状況の報告 ③運転ボランティアの調整および依頼 ④利用者に連絡

利用希望者 → ノゾ → 事務局 → 運転ボランティア

【料 金】 実施試験のため無料
 【申込先】 ノゾ（電話 57-0555 / FAX 00-0000）
 ※申し込みの際に希望日・お名前・電話番号・住所をお伝えください。

第1弾 7/7 7/9 7/12
 第2弾 8/23 8/25 8/27
 第3弾 10/13 10/15 10/18
 その他

・すっきり体操 10月（4～5回）
 ・楽チェア体操 10/5 11/2

地区内の温泉施設や地区外のスーパーへ、ドア to ドアで送迎し、参加された方々は自分の目で見て商品を選ぶことや、友人とのお出かけを楽しまれていました。

また、地区内の2ヵ所の会場で体操を実施している機関と参加者から声がかかり、それぞれで試行運転を実施しました。

住民の皆さまを対象とした研修会を開催

まちづくり研修会

講 師：株式会社イミカ 原田氏
 対 象：地区社協、自治会、まち協、区長、民児協、老人クラブ
 期 日：令和5年3月16日（木）

共助交通研修会

講 師：株式会社イミカ 原田氏
 対 象：地区社協、自治会、まち協、区長、民児協、老人クラブ
 期 日：令和5年6月16日（金）

サロン情報交換会

講 師：北栄町乗りのリクラブ 河本代表
 とっとり県民活動活性化センター 谷氏
 対 象：ふれあい・いきいきサロン参加者
 期 日：令和6年3月6日（火）



現在は制度を利用した共助交通は実施されていませんが、買い物や交流、イベントへの参加などご友人やご家族と乗り合わせで外出をされる方もおられ、身近な範囲で助け合いが行われています。

サロン情報交換会

しゃべり場いずみでサロンについての意見交換を行ったことをきっかけに、地区内のふれあい・いきいきサロンに参加されている方、興味がある方を対象として開催し、サロン活動の活性化やつながり作りを目的に、参加者同士の交流会や講師を招いての講習会などを行いました。

ここでの交流をきっかけに、近くのサロン同士が合同開催するなど、つながりが広がっています。

活動の様子



令和2年度『活動紹介』

第1回目の開催。2つのサロンの代表者から活動紹介をしていただいた後、参加者同士で自分たちのサロンの特徴やいいところ、困っていることなど情報交換を行いました。

令和3年度

『サロンや自宅でできる体操』

理学療法士から膝を守るストレッチや歩き方のポイント、2人ペアでのストレッチなど、実際の体験を通して学びました。



令和4年度

『認知症をみんなで考えよう』

認知症地域支援推進員から、認知症の症状や当事者の思い、接し方のポイントなどを学びました。

また、タブレットを通して遠隔の方とつながる体験もしました。



令和5年度

『共助交通について』

北栄町から“乗りのりくらぶ”の河本代表をお迎えし、共助交通を始めたきっかけややりがい、実際の様子などを伺いました。



スマホ相談会

少人数で楽しく学ぶ

高齢者の方からの「スマホに替えたけど使い方がわからない」という声から、令和3年度に初めての相談会を開催しました。

これまで鳥取大学の学生で結成されたボランティアグループ「チームしろにゃん（旧ねこのてプロジェクト）」や「NPO 法人ふふや」を講師にお迎えし、ゆっくりと相談ができるよう、1対1や少人数グループでの相談会を実施し、令和6年度には公民館事業として同様の形で行いました。少人数で行うことで、気軽にゆっくりと相談ができることはもちろん、会話も弾み、わいわいと和やかな雰囲気が進みました。

この会がきっかけとなり、ふふやが運営する地域食堂へ相談会参加者から食材の寄付が行われるなど、新たなつながりも生まれました。

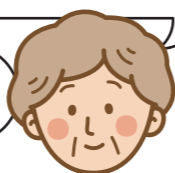


参加された方々の声

こんなに身近で親しみがあるとは思ってなかった。

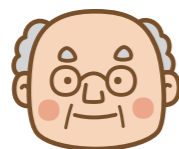


参加してよかった。次回は夫も誘って参加したい。



学生さんが地域のことを教えて下さって次世代が楽しみです。

初心者でも丁寧に分かりやすく何度も聞けました。



参加をきっかけに、講師の学生が運営している地域食堂へ食材の寄付をはじめました。



モデル地区事業を通して

地区担当者コメント

令和4年度から令和6年度にかけて湖南地区を担当させていただき、地区社協をはじめ、地域団体や住民の皆さま、関係機関の方々と協力しながら、様々な活動に取り組んできました。

本事業は令和3年度に始まり、初年度は前任者がサロンや公民館などの集いの場、「湖南でしゃべり場（現：しゃべり場いずみ）」への訪問を中心に、ニーズ把握に重点をおいて活動を行いました。

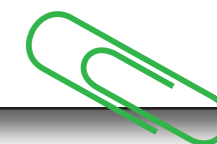
2年目からは、住民の皆さまからいただいたご意見をもとに、地域団体の方々とともにスマホ相談会やサロン情報交換会などの取り組みを広げ、3年目以降は湖南地区らしい形を模索しながら活動を続けてまいりました。

本事業の中心となった「しゃべり場いずみ」は、世代や属性を問わず様々な方が参加し、地域課題の解決に向けた話し合いに留まらず、湖南地区の良いところを再確認し、皆で楽しい時間を過ごす場としても展開しています。

3年間の活動を通じて本当に多くの出会いがあり、本冊子では紹介しきれないほどの交流や地域での取り組みが生まれ、多くの方が自然に支え合い、つながりを大切にしている様子に触れ、湖南地区の温かさを強く感じてきました。

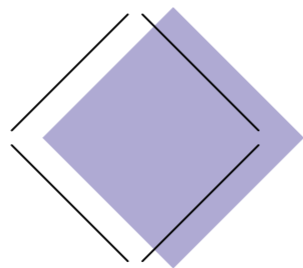
初めて地域に入ったとき、緊張していた私に「緊張せんでええよ。」と声をかけてくださった住民の皆さまの優しさは、今でも心に残っています。

これからも、湖南地区で暮らす方々が安心して過ごせる地域づくりの一端を担えるよう、ささやかではありますが力を尽くしていきたいと思っています。



明德

明德地区



明德地区社会福祉協議会

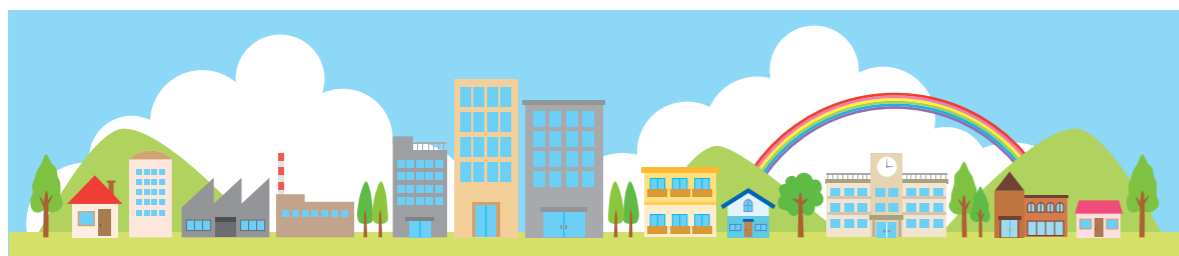
会長 福田 一直

本事業は、地域の皆様が日々の困りごとを共有し、互いに支え合える仕組みを地域主導で築くことを目的として、市社協と地区社会福祉協議会、地区民生委員協議会、地区公民館が協働し取り組んでまいりました。

2年間を振り返ると、当初は地域に潜む困りごとを掘り起こす難しさに直面しましたが、「困りごとを一人で抱え込まないでほしい」という思いのもと、地域住民を対象にアンケートを実施いたしました。その結果、明らかになった課題を整理し、冊子にまとめて各家庭へ配布したことで、自助に踏み出す一助となるよう努めてまいりました。

さらに、未来を担う子どもたちが福祉に関心を持ち、思いやりの心を育めるよう、小学校と連携した福祉学習も実施しました。この取り組みは、将来の地域づくりを担う大切な基盤となるものと確信しております。

これらの活動は、行政のご支援、そして何より地域の皆さまのご理解とご協力があったからこそ実現できたものであり、深く感謝申し上げます。本事業を通じ、困ったときに「話せる場所」があり、「支え合える仲間」がいることの大切さを改めて実感いたしました。今後も、より温かく住みよい地域を目指し、皆さまと共に歩んでまいりたいと存じます。



地区概要

明德地区は鳥取駅の北西部に位置した地区で、鳥取市内でも中心的な市街地が広がっています。鳥取駅や丸由百貨店などが地区内にあり、商業地区と住宅地区がまじりあう一方で、アパートやマンションの建設も近年増加しています。地区社会福祉協議会、地区民生児童委員協議会、地区公民館、地区まちづくり協議会など、各種団体の連携でさまざまな地域活動を進めており、地域のつながりと安心のネットワークを強めています。

また、地区自体は平野部に位置するため、急傾斜地に見られるような直接的な土砂災害の危険は比較的少ない一方で、千代川や袋川の流域に位置しており、洪水や大雨の際には浸水の可能性がある地域です。過去にも袋川の氾濫によって市街地に浸水被害が生じた事例があり、地域住民にとって水害は身近なリスクとなっています。



基本情報

人口

| | 令和5年3月 | 令和7年3月 |
|-------------|---------------|---------------|
| 総人口 | 3,338人 | 3,189人 |
| 14歳以下 | 325人 | 301人 |
| 15～64歳 | 1,920人 | 1,810人 |
| 65歳以上(高齢化率) | 1,106人(32.7%) | 1,078人(33.8%) |

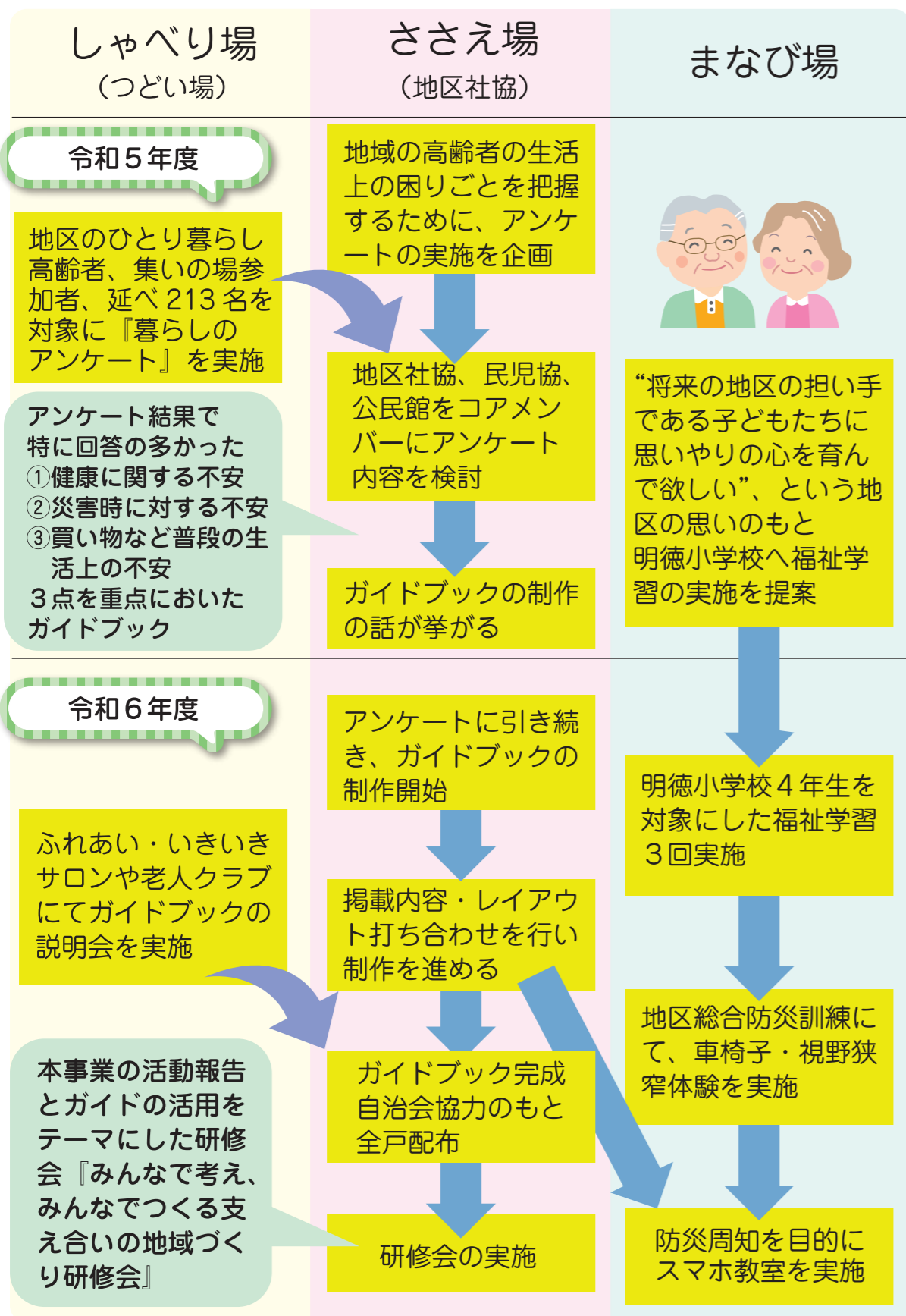
世帯

| | 令和5年3月 | 令和7年3月 |
|-----------|---------|---------|
| 総世帯数 | 1,799世帯 | 1,730世帯 |
| 高齢者のみの世帯 | 601世帯 | 594世帯 |
| うち高齢者単身世帯 | 416世帯 | 402世帯 |

その他

| | 令和5年3月 | 令和7年3月 |
|---------------|--------|--------|
| 要介護認定率(65歳以上) | 20.8% | 21.3% |
| 認知症有病率(65歳以上) | 16.3% | 17.4% |

支え愛サイクル

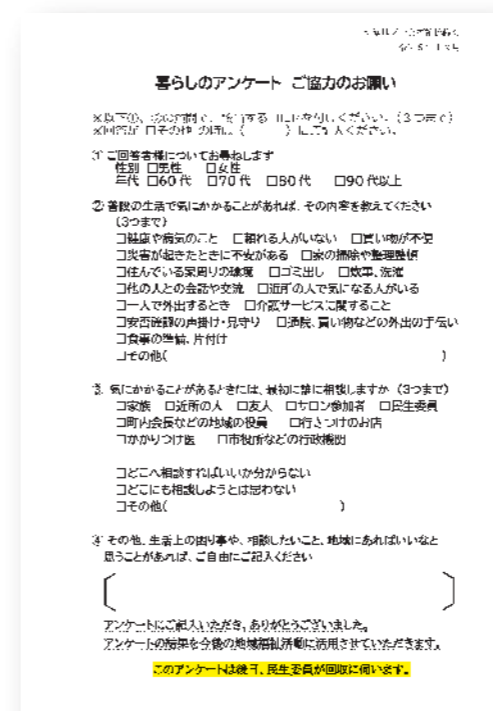


暮らしのアンケート

概要

| | |
|----|--|
| 目的 | 明德地区にお住まいの高齢者の困りごとやニーズを明らかにし、今後の地域活動の参考とする |
| 時期 | 令和5年12月～令和6年1月 |
| 対象 | 231名(明德地区にお住まいのひとり暮らし高齢者、ふれあい・いきいきサロン及び、ふれあいデイサービス参加者) |
| 回答 | 178名(回収率77.1%) |

アンケート結果から見た高齢者の暮らしの状況



- ①『健康や病気のこと』(25.7%)
多くの高齢者が健康や病気への不安を抱えており、慢性疾患や医療機関へのアクセスが課題となっていることが分かりました。
- ②『災害が起きたときに不安がある』(20.3%)
災害時にひとりで対応する不安が強く、避難や支援体制の不足が課題となっていることが分かりました。
- ③『買い物が不便』(18.2%)
日常の買い物が困難との声が多く、特に商業施設や交通手段が少ない地域で課題となっていることが分かりました。
※質問②「普段の生活で気になることがあればその内容を教えてください」の回答の上位3項目

アンケート結果を踏まえて～ガイドブックの制作へ～

アンケート全体から読み取れる共通のテーマは、日常生活における自立への不安と支援の不足でした。多くの高齢者が自分ひとりでは対処しきれない状況に直面していることが分かったことから、地域が孤立せず、安心して暮らし続けるために参考になる情報と相談先について、健康、防災、生活の3テーマを掲載したガイドブックを作成することとにしました。

ひとり暮らし高齢者宅への配布と回収には、民生委員が一軒一軒訪問していただきました。

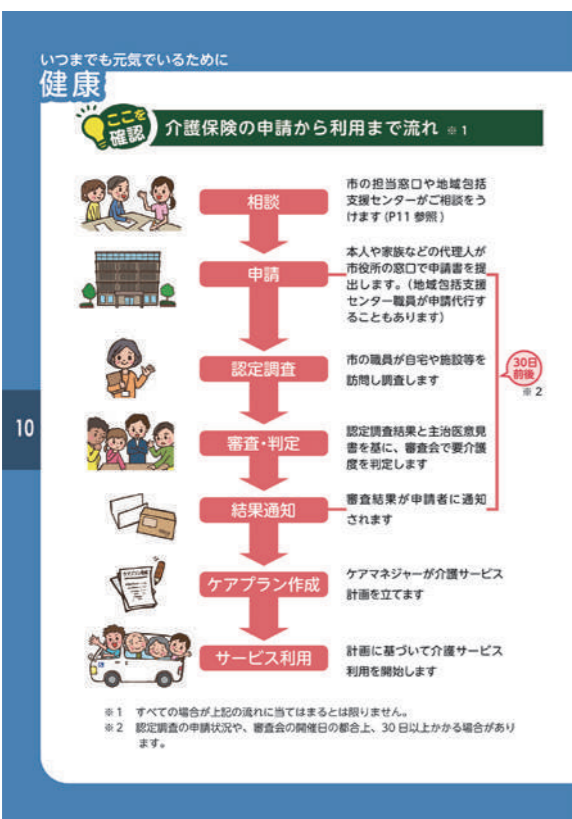
安心して生活するためのガイド

| | |
|-----|----------------------|
| 名称 | 『明德地区安心して生活するためのガイド』 |
| 構成 | A4、24 ページ |
| 配布数 | 730 部 |
| 発行元 | 明德地区社会福祉協議会 |
| 発行 | 令和7年2月 |



ガイドより抜粋

【健康】 介護保険の申請～利用まで流れ



【防災】 警戒レベル3「高齢者等避難」とは？



明德小学校福祉学習

| | |
|----|---------------------------------------|
| 期間 | 令和6年5月～9月 |
| 対象 | 明德小学校4年生（21名） |
| 内容 | 車椅子学習、視覚障がい・盲導犬学習、バリアフリー学習 |
| 協力 | 明德地区社会福祉協議会、明德地区民生児童委員協議会、明德地区公民館、鳥取市 |

明德小学校4年生を対象に、全3回の福祉学習を実施しました。

1回目の学習では、車椅子の使い方を体験し、移動の大変さや工夫を学びました。2回目には、視覚障がいのある方を講師に迎え、お話を盲導犬とのふれあいを通して、障がいへの理解を深めました。子どもたちは、目の不自由さを学びながら、支援や声かけの大切さを実感しました。そして3回目は学校を飛び出し、鳥取市役所本庁舎でバリアフリー探しや高齢者疑似体験を行いました。段差や手すりの有無、通路の広さなどを自分の目で確かめながら、地域での暮らしやすさについて考える機会となりました。

児童は体験を通して相手の立場に立って考えることの大切さを学ぶとともに、日常生活の中で自分たちにできることに気づくことができました。今回の学習を通して、思いやりの心や地域で支え合う意識を醸成する機会となりました。



車椅子の使い方を学ぼう



視覚障がいと盲導犬について学ぼう



市役所にあるバリアフリーを探そう



明德地区総合防災訓練

| | |
|-----|--------------------------------|
| 期 日 | 令和6年10月6日(日) |
| 主 催 | 明德地区自主防災会 |
| 参加者 | 明德地区住民 約150名 |
| 内 容 | 車椅子の使い方、移乗の方法 |
| 協 力 | 小規模多機能型居宅介護木守舎 小規模デイサービスつむぎ |

明德地区自主防災会では、毎年、地域ぐるみで「地区総合防災訓練」に取り組んでいます。

地域の防災力強化のため、市社協と地区の介護サービス事業所が協力し、車椅子の使い方や、立ち座りが難しい方を安全に移乗する方法を学ぶ訓練を企画しました。高齢化が進む地域では、災害時に自力で避難することが難しい方も少なくありません。そこで、町内会ごとにマットやカラーコーンを障害物に見立て、実際に車椅子を押しながら段差や操作を学ぶ体験を行いました。

今回の訓練を通して、地域の中で助け合う意識が高まり、いざという時に安心して行動できる力につながりました。防災訓練を単なる避難の練習にとどめず、誰もが安心して暮らせる地域づくりにつなげていくことが大切だと感じられる取り組みとなりました。

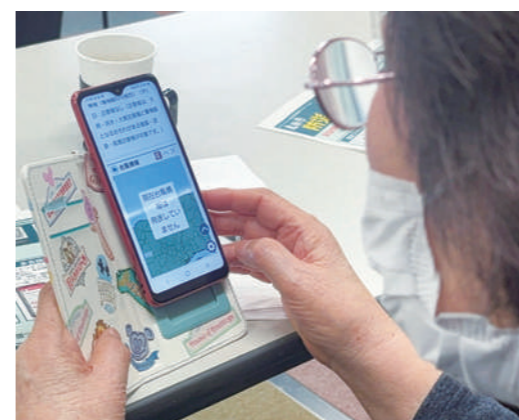


防災訓練に参加された方の感想（一部）

- ・車椅子の操作、人の運び方など、楽しみながら体験できました。
- ・車椅子の操作が初めてだったのでよかったです。
- ・いつか介護したり、されたりするときに、学ぶことができよかったです。
- ・今後の訓練でも、普段の暮らしで役立つ介助の仕方などを教わりたいです。

スマホ教室

| | |
|-----|------------------------------|
| 期 日 | 令和7年3月12日(水) |
| 主 催 | 明德地区公民館 |
| 参加者 | 明德地区住民 約10名 |
| 内 容 | 「鳥取市防災アプリ」を使ってみよう 個別相談タイム |
| 協 力 | 鳥取市危機管理課、鳥取大学 |



鳥取市が発信している防災に関する情報を、地域の方にもっと知ってもらおうと、地区公民館の主催でスマホ教室を開催しました。当日は、鳥取市危機管理課の職員を講師に招き、「鳥取市防災アプリ」を使った浸水シミュレーションや、災害情報の調べ方について丁寧にレクチャーしていただきました。

また、鳥取大学から学生2名も参加し、個別相談タイムでは、スマホの操作で分からなかったことを1対1で教えてもらえる時間を設けました。

参加者は「自分でできなかった操作が分かるようになった」と喜んでおられ、笑顔で操作を確かめる姿が見られました。

今回の教室を通じて、地域の方々がスマホを活用して防災情報を得る力を高めるとともに、防災への意識を日常の中でさらに高めるきっかけになったと感じられる取り組みとなりました。

みんなで考え、みんなで作る “支え合いの地域づくり” 研修会

| | |
|-----|--|
| 期 日 | 令和7年3月22日（土） |
| 主 催 | 明德地区社会福祉協議会 |
| 共 催 | 明德地区民生児童委員協議会、明德地区公民館 |
| 参加者 | 明德地区住民 23 名、明德地区内介護サービス事業所 3 名 |
| 内 容 | 講義「防災の視点から考える地域づくり」 報告『地域の「話し愛・話し愛」推進事業』の取組について グループワーク『明德地区のこれからを考える』 |

2年間の『地域の「話し愛・支え愛」推進事業』の取り組みを振り返りながら、今後の地域における支え合いの姿を考える研修会を開催しました。研修では、これまでの成果や課題を共有し、日常の中で住民同士がどのように声をかけ合い、助け合えるかについて意見交換を行いました。

特に、“ふだんのつながり”を築いておくことが、いざという時の大きな支えとなり、安心して暮らせる地域づくりの基盤になることを改めて確認しました。今回の研修を通じて、支え合いの大切さを再認識し、明德地区における支え合いの輪をさらに広げていく機会となりました。



研修会に参加された方の感想（一部）

- ・明德地区の住民をひとりにさせない！という言葉がとても心強かった。（地域住民）
- ・一番重要なことは常日頃の近所の付き合いとか、地区の人とのつながりが大事なことで感じました。（地域住民）
- ・普段から地域とのつながりを持ち困ったとき、災害時など声を掛けやすい環境づくりができてほしいなと思います。（地域住民）
- ・このような場が今回限りでなく、継続的に実施できるとよいのではないかと思います。ここで話し合ったことが実現につながってほしいと思います。（行政関係者）
- ・日頃から事業所運営にご協力頂いています。明德地区の地域づくりに少しでもできるように取り組んでいきたいと思っています。（介護サービス事業所職員）

モデル地区事業を通して

地区担当者コメント

地区担当者として、2年間、『地域の「話し愛・支え愛」推進事業』に携わらせていただきました。取り組みの始まりとなった『暮らしのアンケート』では、地区社会福祉協議会をはじめ地域の皆さまに多大なご協力をいただきました。多くの方と関わる中で、誰もが安心して暮らせる地域づくりのため、地域の皆さまが思いを強く持つておられることが伝わってきました。事業を振り返ると、地域の皆さまのお力なくして、各種の取り組みは実現できなかったと感じています。

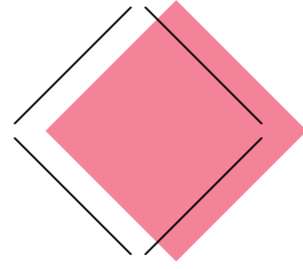
特に、『安心して生活するためのガイド』では、「誰に声をかければよいのか」「どこに相談すればよいのか」という不安へを抱える方に対して、地域の実情を踏まえながら、本当に必要だと思える情報を見えるようにできたことは、大きな成果の一つだと思います。完成したガイドを手にした方から、「これは町内会館の見えるところに置いておかないけん」といった声をいただいたときは、とても嬉しく思いました。

その他の取り組みを進める中でも「うちの地区ならこんな工夫ができる」といった前向きなご意見が出るたびに、地域には多くの知恵や力があることを実感しました。その思いをつなぎ合わせていくことが、自身の役割であり、大きなやりがいにもなっています。

最後に、今回の事業を通じて、地域づくりは特別な人だけが担うものではなく、一人ひとりの小さな関わりから始まることを改めて学びました。地域内でつながり、見守り合うことで気づきが広がり、一人の視点では見逃してしまう困りごとも、早期に発見できると思います。今後も地区担当者として、安心して暮らせる地域づくりを地域の皆さまと共に進めてまいりたいと思います。



東郷地区



東郷地区社会福祉協議会

会長 小山 啓一郎

令和2年に会長に就任してから、早くも5年が経過しました。

東郷地区では、令和2年に「コロナ」が発生して以来、公民館で開催していた敬老会を中止し、記念品を自宅に届ける方法へと変更し、現在に至っております。高齢化が進む中、東郷地区も令和7年には75歳以上の方が160名となり、65歳以上の高齢者は299名、高齢化率は51.6%と年々増加傾向にあります。

この度、民生児童委員や各区長のご協力を得て、65歳以上の高齢者を対象に、集会所にて「移動式健康教室」を実施しています。

内容は、「健康」に関するフレイル予防として、集落ごとに希望を伺いながら、鳥取市社会福祉協議会と連携して定期的に行っています。

この事業に携わり、東郷地区の健康への関心の高さを痛感いたしました。

地域の皆さまが日々の生活の中で健康を意識し、積極的に参加していただき、深く感銘を受けております。

人と人が疎遠になり、個人情報への制約もあり、隣近所づきあいも以前のようにままならない中、今回の事業をきっかけに、今後もこうした意識の高まりを支える活動を継続し、公民館、区長会、民生児童委員協議会、健康づくり推進員連絡協議会、となり組福祉員等々、協力のもと、安心して健康に暮らせる住みよい地区となる地域福祉を推進する活動を心掛けてまいります。

東郷地区民生児童委員協議会

会長 村上 寿隆

昨年から今年にかけて、東郷地区の8カ所の集落にある公民館や集会所を活用し、健康講座および健康測定を実施しました。若年層から高齢者まで幅広い年代の方々にご参加いただき、地域の皆さまの健康への関心の高さを改めて実感しています。

民生委員として日々活動する中で、「自分の体の状態が分からないと不安で、畑での作業も安心してできない」といった声を耳にすることもあり、今回の取り組みは、そうした不安の軽減にもつながったと感じています。

参加者の皆さまからは、「年に2回くらい実施してほしい」「徒歩でも通える距離で開催されるのが嬉しい」との声も多く、大変喜ばれております。

現在の家庭環境や車社会の中で、高齢者の方々の生活はますます困難になりつ

つあります。だからこそ、地域全体で支え合いながら、誰もが安心して暮らせる環境づくりが求められています。

私たちは、少しでも負担の少ない方法を模索しながら、以前から望んでいた「移動式健康教室」の活動を、鳥取市社会福祉協議会を基盤に、鳥取市保健所や高草地域包括支援センターの皆さまのご協力を得て、継続していく予定です。

今後も一人でも多くの方にご参加いただき、地域の皆さまが活力を取り戻し、健康で長生きできるよう、この活動を続けてまいります。そして、笑顔あふれる生活が送れるよう、私たちも取り組んでまいります。

引き続き、皆さまの温かいご支援とご協力をよろしくお願いいたします。

地区概要

鳥取市街地から車で約10分の東郷地区は、約8kmにわたる谷に広がる田園地帯で、高路集落には棚田が残り、地域の原風景を今に伝えています。夏には有富に虫が舞い、「ほたる祭り」が毎年開催されるなど、自然も楽しめます。本高集落から宮谷へ抜ける立見峠は、民話『おとんじょろ狐』の舞台として知られています。



基本情報

人口

| | 令和5年3月 | 令和7年3月 |
|-------------|-------------|-------------|
| 総人口 | 612人 | 579人 |
| 14歳以下 | 37人 | 33人 |
| 15～64歳 | 271人 | 247人 |
| 65歳以上(高齢化率) | 304人(49.7%) | 299人(51.6%) |

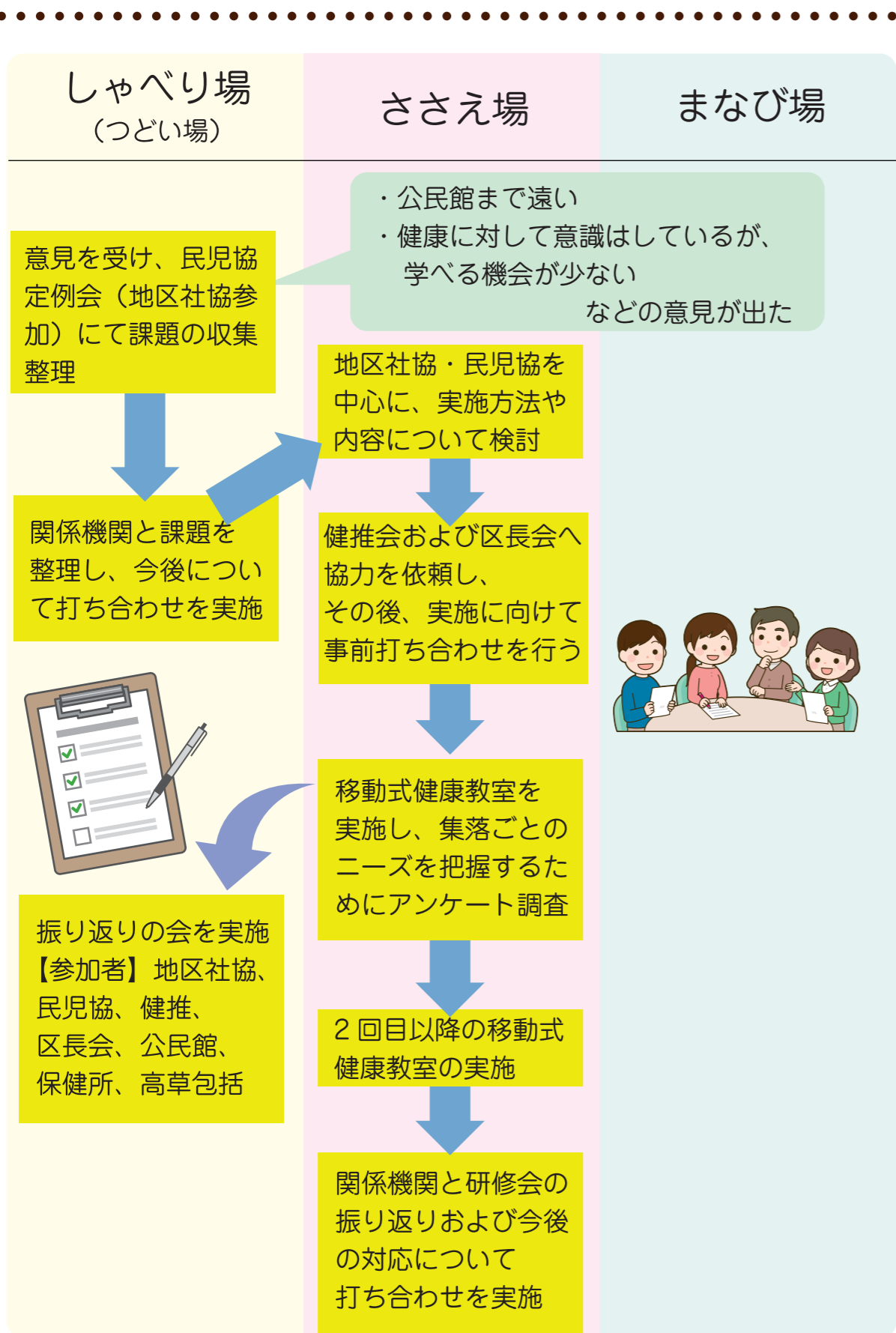
世帯

| | 令和5年3月 | 令和7年3月 |
|-----------|--------|--------|
| 総世帯数 | 269世帯 | 265世帯 |
| 高齢者のみの世帯 | 121世帯 | 128世帯 |
| うち高齢者単身世帯 | 67世帯 | 71世帯 |

その他

| | 令和5年3月 | 令和7年3月 |
|---------------|--------|--------|
| 要介護認定率(65歳以上) | 13.5% | 15.1% |
| 認知症有病率(65歳以上) | 9.9% | 10.4% |

支え愛サイクル



移動式健康教室

「公民館が遠く、車が無いと行くことが出来ない」という声を聞き、家が遠い方でも気軽に集まってもらえるように、各集落の集会所を巡る『移動式』の健康教室を企画しました。

実施に向けて、地区社協、民児協、区長会、健康づくり推進員連絡協議会の方のご協力をいただきながら、第1回目となる本高多目的集会所にて『本高版 移動式健康教室』を8月に開催しました。

第1回 本高版

The flyer for the '本高版 移動式健康教室' (Honnaka Edition Mobile Health Classroom) is titled '～みんなでフレイルについて学びませんか?～' and '血管年齢、体脂肪などの測定もあります!'. It lists the date as '令和6年8月21日(水)', the location as '本高多目的集会所', and the time as 12:30-14:00. The content includes 'フレイル予防について', '簡単な体操', '測定・健康相談', and '終了(予定)'. It also notes '※途中参加OK!' and '参加費 無料'. To the right is a photo of the event with people sitting around a table. A speech bubble from the photo says 'これからも移動式教室を開催してほしい!' and another says '年に1回くらい勉強会してほしい!'.

| | |
|-----|--|
| 期 日 | 令和6年8月21日(水) |
| 場 所 | 本高多目的集会所 |
| 参加者 | 10名 |
| 内 容 | フレイル予防についての講話 簡単なストレッチの説明 測定(血圧、体脂肪、血管年齢、握力) 健康相談 |
| 協 力 | 東郷地区社会福祉協議会、東郷地区民生児童委員協議会 東郷地区健康づくり推進員連絡協議会、保健所、高草包括 |

「フレイル」についての説明や、座ったままでできる簡単な体操、血圧・血管年齢・体脂肪の測定を行い、最後には健康・お悩み相談会も実施しました。健康に関する相談はもちろん、日頃の悩みなども皆さまで共有できる場となりました。


第2回 中村版

なかむら

「測定を中心とした教室を開催してほしい」とのご要望をいただいたため、測定を実施した後に、その結果の説明や、結果を踏まえた注意点についてご説明していただきました。

～参加者の感想～

- ・健康維持向上について、改めて意識するようになった。
- ・1年に何回かしてほしい。
- ・少人数での参加でよかった。

| | | |
|-----|---|--|
| 期 日 | 令和6年10月7日(月) |  |
| 場 所 | 中村老人憩の家 | |
| 参加者 | 9名 | |
| 内 容 | 測定／測定結果の説明・気を付けるべきこと 測定(血圧、体脂肪、血管年齢、握力)／健康相談 | |
| 協 力 | 東郷地区社会福祉協議会、東郷地区民生児童委員協議会 東郷地区健康づくり推進員連絡協議会、保健所、高草包括 | |

第4回 西今在家版


にしいまざいけ

「防災食の備え」について、管理栄養士から食事のお話を聞いた後、パッククッキングを皆さまで体験しました!

また、これまでは個別相談形式だったのですが、茶話会にすることで、久しぶりに集まってお話を楽しまれていました。

～参加者の感想～

- ・和やかに楽しく学習ができました。
- ・参加の皆さまと談話できて楽しかったです。

| | | |
|-----|--|---|
| 期 日 | 令和7年3月17日(月) |  |
| 場 所 | 西今在家公民館 | |
| 参加者 | 8名 | |
| 内 容 | 災害時の食事について／パッククッキング 測定／茶話会・相談タイム | |
| 協 力 | 東郷地区民生児童委員協議会 東郷地区健康づくり推進員連絡協議会、東郷地区区長会 保健所、高草包括 | |

第3回 有富版


ありどめ

事前に「歯について学びたい」というご要望があったため、歯科衛生士の方を講師にお迎えし、講座を実施しました。



～参加者の感想～

- ・歯磨きの大切さやポイントがよく理解できた
- ・オーラルフレイルについての話を聞くのは初めてだったので、貴重な機会となった。

| | | |
|-----|---|--|
| 期 日 | 令和6年12月4日(水) |  |
| 場 所 | 有富活性化センター | |
| 参加者 | 14名 | |
| 内 容 | お口についての講話／お口元気体操 測定(血圧、体脂肪、血管年齢、握力)／健康相談 | |
| 協 力 | 東郷地区区長会、東郷地区民生児童委員協議会 東郷地区健康づくり推進員連絡協議会、保健所、高草包括 | |

第5回 篠坂版


しのさか

鳥取市医療看護専門学校
学校の学生の皆さまにご協力いただき、参加者の方々と一緒に体操を行いました!



～参加者の感想～

- ・学生が親切に教えてくれた。
- ・体操を実際に見ながら一緒にできたので、よくわかった。
- ・自分の体を知ることができた。

| | | |
|-----|---|---|
| 期 日 | 令和7年3月18日(火) |  |
| 場 所 | 篠坂公民館 | |
| 参加者 | 12名 | |
| 内 容 | 測定 医療看護専門学校学生による体操／茶話会 | |
| 協 力 | 学校法人大阪滋慶学園 鳥取市医療看護専門学校 東郷地区民生児童委員協議会 東郷地区健康づくり推進員連絡協議会、保健所、高草包括 | |

振り返りの会を実施

令和6年度の移動式健康教室に関するアンケート結果をもとに、振り返りの会を実施しました。アンケートでは、参加しやすい曜日・時間帯、教室で取り入れてほしい内容、暮らしの中での困りごとなどを項目として設定し、今後の継続に向けて、皆さまのご要望に応えられるよう工夫しました。

アンケートは集落ごとに実施・集計し、各地域団体の会長にも結果を共有しました。振り返りの会では、今回の実施を通じて得られた良かった点や改善すべき点について話し合いました。

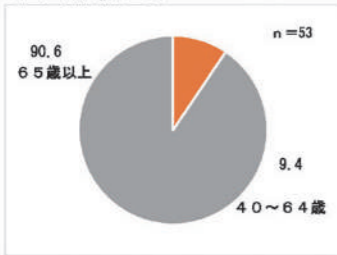
また、「今後も実施してほしい」という声が多く寄せられ、特に集会所での開催は参加率が高いことから、地域のニーズを再確認することができました。

【令和6年度 東郷地区移動式健康教室について（報告）】

1. 実施結果

| 日時 | 場所 | 内容 | 参加人数 | アンケート回収率 |
|-----------------------------|-----------|---|------|----------|
| R6.8.21（水） 12時00分～13時30分 | 本高多目的集会所 | ・フレイル予防についての講話 ・簡単なストレッチの説明 ・健康測定（血圧、体脂肪、血管年齢、握力） | 10名 | 90% |
| R6.10.7（月） 13時30分～15時15分 | 中村老人憩の家 | ・健康測定（血圧、体脂肪、血管年齢、肌年齢、ストレスチェック） ・測定結果の説明 ・健康寿命とフレイルについて講話 | 9名 | 100% |
| R6.12.4（水） 13時30分～15時15分 | 有富活性化センター | ・歯科衛生士によるオーラルフレイルについて講話 ・健康測定（血管年齢、肌年齢、骨密度） | 14名 | 100% |
| R7.3.17（月） 13時30分～15時 | 西今在家公民館 | ・防災食の備えについて ・健康測定（血圧、血管年齢、肌年齢、骨密度） ・茶話会・相談タイム | 8名 | 100% |
| R7.3.18（火） 10時30分～12時 | 篠坂公民館 | ・健康測定（血圧、血管年齢、肌年齢、骨密度） ・学生さんによる体操 ・茶話会・相談タイム | 12名 | 100% |

参加者年齢別構成（%）

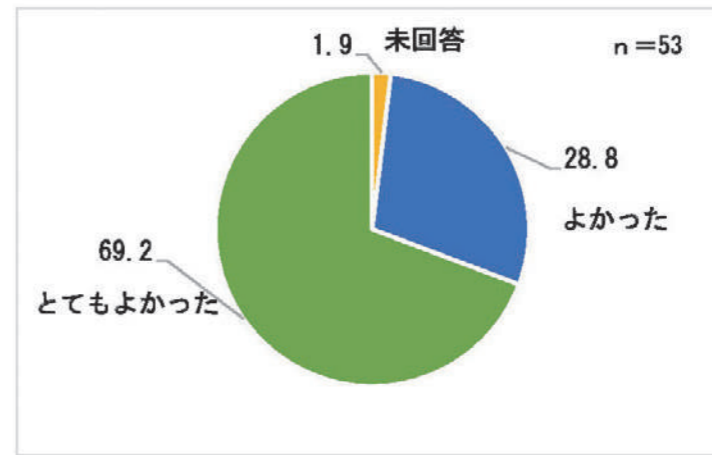


参加機関

- 東郷地区社会福祉協議会
- 東郷地区民生児童委員協議会
- 東郷地区健康づくり推進員連絡協議会
- 東郷地区区長会
- 東郷地区公民館

2. アンケート調査結果

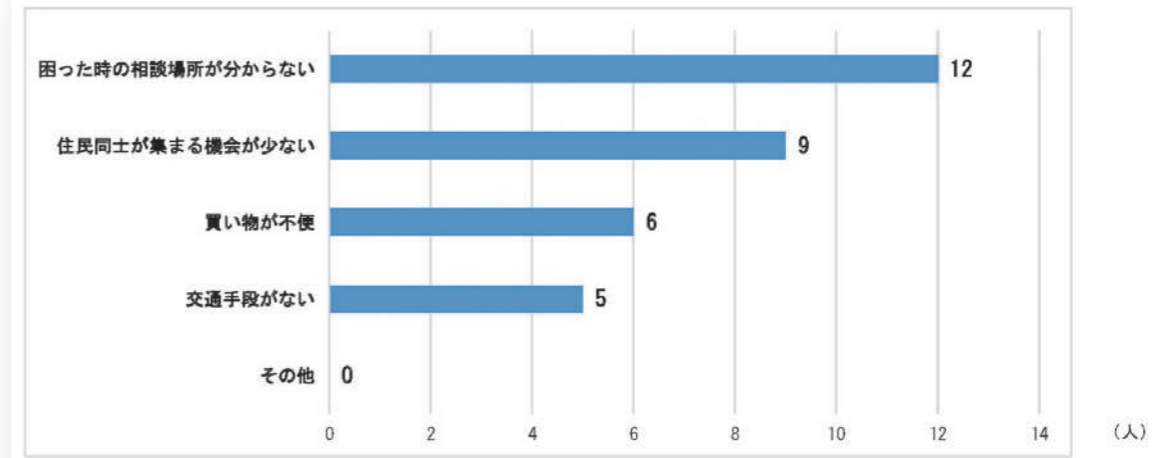
(1) 移動式健康教室はいかがでしたか？ あてはまるものに○をして下さい。(%)



今回のアンケートでは、「とてもよかった」「よかった」と回答された方がほとんどでした。結果から、多くの方にご満足いただけたことがわかります。

特に「とてもよかった」と答えた方が多く、内容や対応に対して高い評価をいただきました。「よかった」との回答も多く、全体として好意的な印象を持っていたようです。

(5) 暮らしの中での困りごとがありましたら、教えて下さい。(人)



「暮らしの中での困りごとはありますか」という質問に対して、最も多かった回答は「困った時の相談先が分からない」でした。次に多かったのは「住民同士が集まる機会が少ない」という声です。今回の集まりをきっかけに、今後も継続的に開催するとともに、住民が集う機会がさらに増えていくよう、支援してまいります。

第6回 高路新田版

こうろしんでん



～参加者の感想～
 ・知らないことがたくさんあり、参加して良かったです。
 ・パンフレットを読んでやってみます！
 ・少人数で話せてとても良かった。



| | |
|-----|---|
| 期 日 | 令和7年4月17日（木） |
| 場 所 | 高路新田公民館 |
| 参加者 | 7名 |
| 内 容 | お口についての講話／お口元気体操 測定（血圧、体脂肪、血管年齢、握力）／健康相談 |
| 協 力 | 東郷地区民生児童委員協議会、東郷地区区長会 東郷地区健康づくり推進員連絡協議会、保健所、高草包括 |

第8回 高路版

こうろ



～参加者の感想～
 ・測ったことがなかったから良かったです。
 また測定したいから次もしてほしい。
 ・話が分かりやすく聞けた。
 ・年2回開催してほしい。
 ・地元で健康教室ができてありがたかったです。



| | |
|-----|---|
| 期 日 | 令和7年6月18日（水） |
| 場 所 | 高路公民館 |
| 参加者 | 13名 |
| 内 容 | 認知症予防の講話／お口元気体操 測定（血圧、体脂肪、血管年齢、握力）／健康相談 |
| 協 力 | 東郷地区民生児童委員協議会、東郷地区区長会 東郷地区健康づくり推進員連絡協議会、保健所、高草包括 |

第7回 北村版

きたむら

～参加者の感想～
 ・和やかに楽しく学習ができました。
 ・参加の皆さまと談話でき楽しかったです。
 ・普段、なかなかお話ができなかった方々とおしゃべりができてよかった。



| | |
|-----|---|
| 期 日 | 令和7年5月27日（火） |
| 場 所 | 有富活性化センター |
| 参加者 | 14名 |
| 内 容 | お口についての講話／お口元気体操 測定（血圧、体脂肪、血管年齢、握力）／健康相談 |
| 協 力 | 東郷地区区長会、東郷地区民生児童委員協議会 東郷地区健康づくり推進員連絡協議会、保健所、高草包括 |

まとめ

アンケート結果を参考に残りの集落で事業を実施し、全集落での実施を終えることができました。

「公民館が遠くて事業に参加できない」というご意見を受け、集会所を活用させていただいたことで、より多くの方々にご参加いただき、地域のつながりを深める貴重な機会となりました。

参加者の皆さまからは、「身近な場所で開催されてありがたい」「近くに住んでいてもコロナでゆっくり話す機会が減ってしまったのでよかった」といった温かい声が寄せられました。



講座一覧を作成

振り返りの会において、「地域からの要望をよりの確に把握するためには、一覧表などの資料があると良い」という意見を受けて、移動式健康教室の実施内容や地域から寄せられた要望を整理した一覧表を新たに作成しました。一覧表の導入により、各地域からの要望が一目で把握できるようになり、情報の共有や企画がスムーズになりました。また、振り返りの場では、一覧表を活用することで、具体的な改善点や成功事例が明確になりました。

令和7年度
東郷地区
移動式健康教室 講座一覧

地域にお住まいの方の「車が無いと公民館へ行くことも難しい」という声を伺い、令和6年8月より集会所を巡回し、講話や測定を行っています。

<参加機関> 鳥取市、鳥取市社会福祉協議会、鳥取高草地域包括支援センター

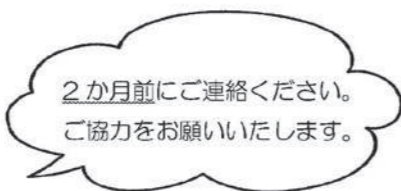
| 分野 | 内容 | |
|----|---------------|-------------------|
| 健康 | フレイル | 病気・予防についての講話 |
| | 生活習慣病 | |
| | むし歯と歯周病 | |
| | 認知症 | |
| 食事 | 防災の備えとバックッキング | 食事についての講話（調理実演あり） |
| | 食事のバランス | |
| | 転倒・骨折予防 | |
| 体操 | 膝・関節痛予防 | 講師と一緒に体操をします。 |
| | しゃんしゃん体操 | |
| | | |

※ご希望があれば、健康測定も実施いたします。（例）血管年齢、骨密度、肌年齢 など…
※講師・測定に関する費用は無料です。

～お申込み～

電話でのお申し込みをお願いいたします。

- 希望する日時（候補日を3つ）
- 内容
- 開催場所
- 人数 をお伝えください。



～連絡先～

鳥取市社会福祉協議会 地域支え合い支援課
TEL : (0857) 24-3180

モデル地区事業を通して

地区担当者コメント

地区担当者として、初めは地域の皆さまとどのように関わっていくべきか、不安や戸惑いもありました。まずは、顔と名前を覚えてもらおうと行事や集まりに足を運び、地域の皆さまと少しずつ会話を重ねていく中で、皆さまの温かさや思いやりに触れることができました。

移動式健康教室は、地区へ訪問した際に「車が無いと公民館にも行けない」という声を聞いたのがきっかけでした。高齢化が進む中で、外出の機会が減り、健康面や社会的なつながりに不安を感じている方がおられることに気づかされました。そこで、「私たちが出向くことで、少しでも気軽に参加できる場をつくれませんか」と考え、移動式という形での健康教室を企画しました。

地域の集会所を活用し、身近な場所で運動や健康相談ができるよう工夫を重ねることや、東郷地区社会福祉協議会小山会長、東郷地区民生児童委員協議会村上会長をはじめとする各地域団体の声掛けのおかげで少しずつ参加者も増えていきました。

参加者からは、「近くで開催してくれて助かる」「毎年してほしい」といった声もいただき、改めて場づくりの大切さや取り組みの意義を実感しています。

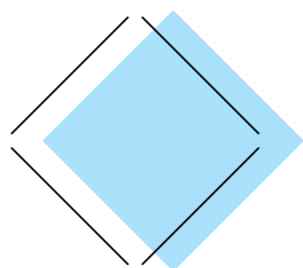
地域に伺うたびに、優しく声をかけてくださったり、笑顔で温かく迎えてくださる東郷地区の皆さまと一緒に考え、取り組めたことは、私にとってかけがえのない経験となりました。まだまだ手探りの部分も多いですが、地域の皆さまの声に耳を傾けながら、共に地域をつくっていける存在でありたいと思います。

事業を通して出会えた方々や、得た多くの経験を活かして、今後も地域の皆さまとよりよい地域づくりに貢献していきたいです。



修立

修立地区



修立地区まちづくり協議会

会長 石本 昭雄

能登半島地震をはじめ、激甚化する豪雨災害等を背景に防災への関心が高まる一方、あらゆる分野に広がる少子・高齢化、人口減少の波。地域社会も、今や住民の三分の一が65歳以上。役員のみならず手不足に加え、青・壮年層が多数の高齢者を守る避難行動も、すでに現実的ではなくなっています。

自助のみならず共助の場面においても、全員が何らかの役割を担う意識や気概を持たなければ、自治体や地域活動だけでは支え切れない時代です。ただ、自助や共助の考え方がどれだけ浸透しても、いざ災害に直面し、心や体が錆びついて動かなければ、これも絵に描いた餅に終わります。自分も高齢者だけど、自分の事は自分でできる、皆と一緒に役に立ちたい、そうした意識が広がってこそ地域の防災力も維持できる。

そこで浮かんだのが「フレイル予防」、これも地域防災にとって思いのほか重要な課題ではないかという着眼点でした。さらに、身体のみならず、精神的・社会的活動をもフレイル予防の大切な柱と位置づけ、地域や公民館活動への参加もフレイル予防に繋がれば、地域活動全般の活性化という相乗効果や好循環も望めるという展望です。

こうした流れが「防災 × フレイル予防 × まちづくり」研修会を始めとした様々な取り組みへと広がっている経緯です。

これらの取り組みは、地域各種団体の全面的協力に加え、市、市社協、東包括等関係機関からの多大な支援等の下に進めることができました。改めて、多くの関係者に深く感謝するとともに、今後の団体・組織間連携の一層の拡大に向け、さらなる契機となるよう切に願うものです。

修立地区公民館 館長 / まちづくり協議会事務局長

豊福 聡

令和6年12月、地区に3ヶ所ある指定避難場所にて「同時開設避難訓練」を行い、140名以上が参加されましたが、幾つか不安を感じました。「地区人口の4%の参加しかなかったこと」と「どの会場も高齢者の参加が少なかったこと」です。その時は取り立てて重大な問題が潜んでいるという認識はありませんでしたが、しばらくして「修立地区は、要介護認定者及び認知症有病者の割合が10年来市より高い」というデータを見つけ、大変驚きました。避難訓練時に感じた高齢者の参加が少ない状況を裏付けているデータだと思ったからです。そして「ひょっとしたら修立地区には、要介護や認知症の方だけでなくフレイル状態の方も相当数あるのではないかと直感しました。だとすると、修立地区はとても重い地域課題を抱え続けていることになります。

そこで、合言葉「人口減から人交（コミュニケーション）増へ」を旗印に、活動の柱を「防災」に据えて①災害に強い体づくり②町内の防災意識とコミュニケーション向上③防災とフレイル予防意識の向上などに取り組んでまいりました。

今より更に「住み心地のよい修立」にしていくためには、公民館+まちづくり協議会と地域の皆さまとが一層「共助」を強めていくことが、課題の改善につながるものと強く思っているところです。

こうした経緯をふまえ、この度市社協の支援により、まちづくり協議会の取り組みをまとめ、地域の皆さま全員に向けた、地域の皆さまのための「いつもともしものハンドブック」を作成することができました。心より感謝申し上げますとともに、今後ハンドブックの活用について丁寧に啓発を続けていきたいと思っています。

こうした経緯をふまえ、この度市社協の支援により、まちづくり協議会の取り組みをまとめ、地域の皆さま全員に向けた、地域の皆さまのための「いつもともしものハンドブック」を作成することができました。心より感謝申し上げますとともに、今後ハンドブックの活用について丁寧に啓発を続けていきたいと思っています。

地区概要

修立地区は、久松山のふもとに広がる地区で「ふるさと」を作曲した岡野貞一や俳人・尾崎放哉の生誕地として知られています。また、麒麟獅子舞や天神川桜並木に並ぶ行灯づくりなど、四季の行事を大切にしておられます。

一方で、公民館の近くまで土石流警戒区域が迫っているほか水害への不安もあり、防災への取り組みが積極的に進められています。



基本情報

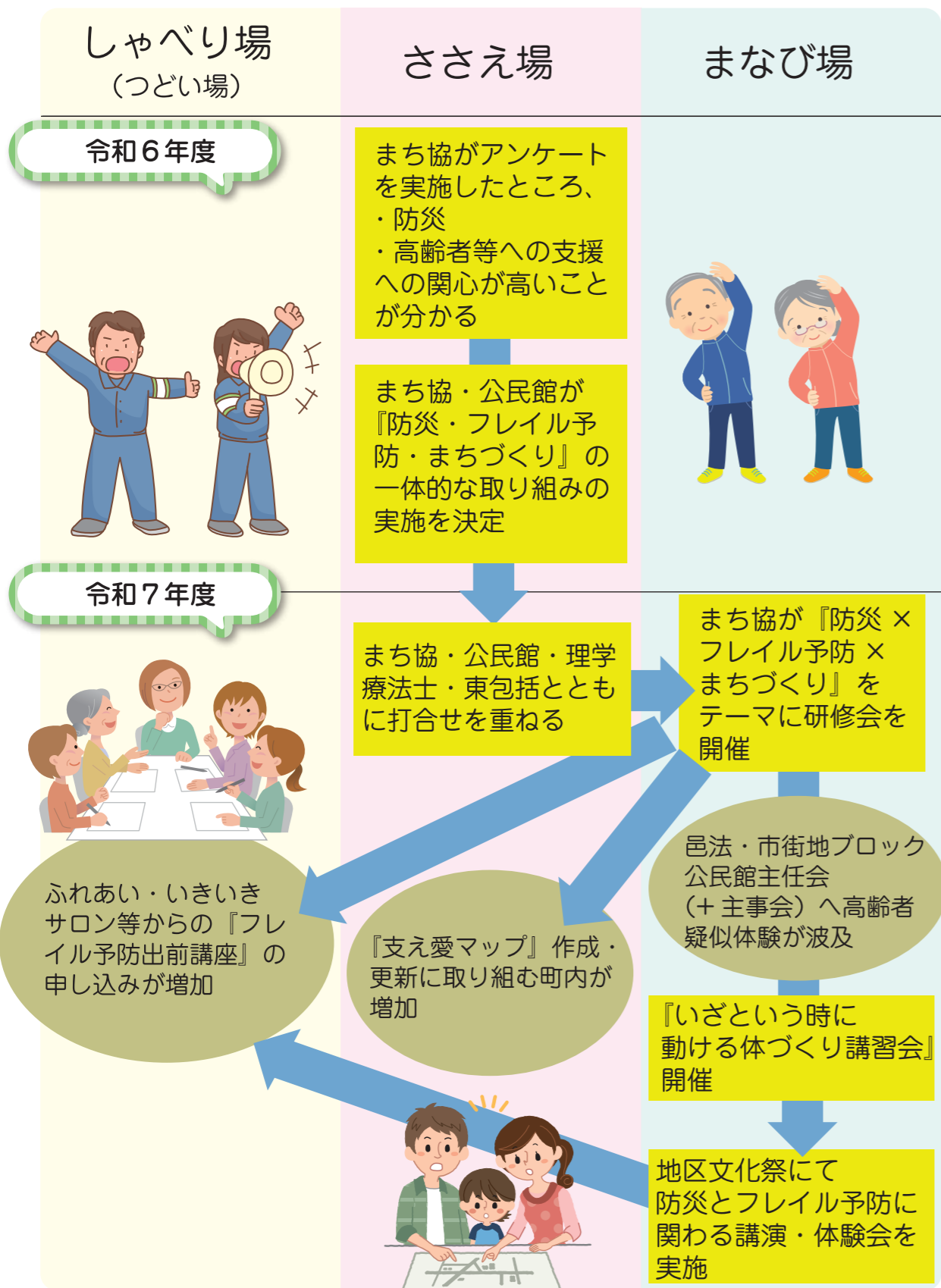
| 人口 | 令和6年3月 | 令和7年3月 |
|-------------|---------------|---------------|
| 総人口 | 3,882人 | 3,797人 |
| 14歳以下 | 597人 | 551人 |
| 15～64歳 | 2,135人 | 2,098人 |
| 65歳以上(高齢化率) | 1,150人(29.6%) | 1,148人(30.2%) |

| 世帯 | 令和6年3月 | 令和7年3月 |
|-----------|---------|---------|
| 総世帯数 | 1,848世帯 | 1,812世帯 |
| 高齢者のみの世帯 | 576世帯 | 585世帯 |
| うち高齢者単身世帯 | 372世帯 | 376世帯 |

| その他 | 令和6年3月 | 令和7年3月 |
|---------------|--------|--------|
| 要介護認定率(65歳以上) | 19.4% | 19.0% |
| 認知症有病率(65歳以上) | 16.7% | 16.6% |

支え愛サイクル

(防災 × フレイル予防 × まちづくり)

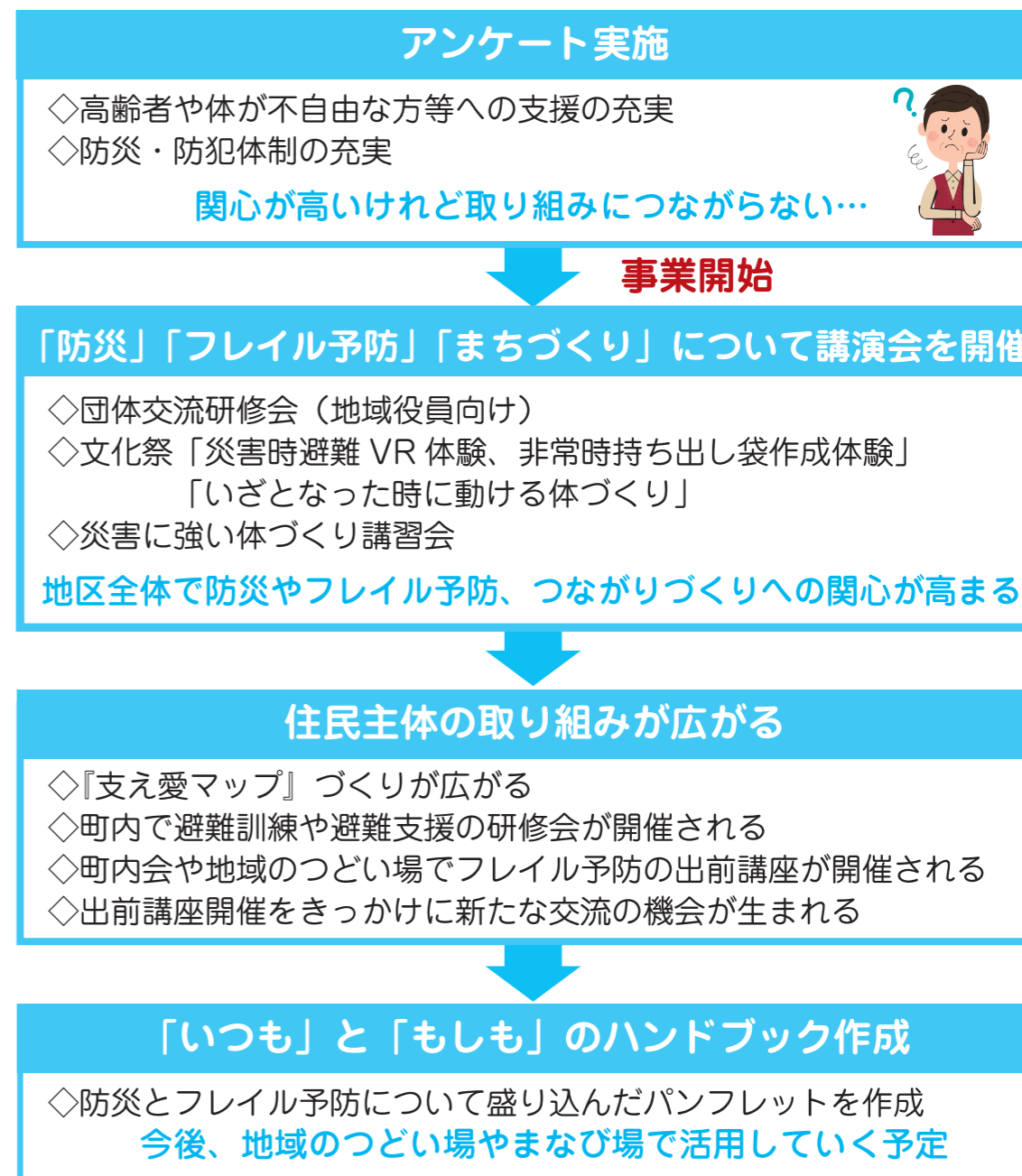


防災 × フレイル予防 × まちづくり

まちづくり協議会は3年ごとにアンケートを実施しており、防災への関心や高齢者・障がいのある方への支援の充実を望む声が多く寄せられ、対策の提案、呼びかけを行って来ました。しかし「自分ごととして考えにくい」「日常生活とのつながりが見えにくい」ことから、具体的な取り組みにはつながっていませんでした。

この課題を受け、まちづくり協議会と公民館は「公民館を拠点に防災やまちづくりを進め、住民同士の交流や健康づくりも促したい」と『地域の「話し愛・支え愛推進事業』を活用し、防災・フレイル予防・まちづくりを一体的に進める取り組みを開始しました。

取り組みの経過



修立地区町内会・各種団体役員等合同交流研修会（団体交流研修会）

まちづくり協議会が毎年主催している研修会を令和7年度は「防災 × まちづくり」「防災 × フレイル予防」をテーマとして開催し、地区内の各種団体役員に加えて地区内の保育園職員や中学生等、79名が参加されました。

研修会後には多くの町内会や集いの場で、支え愛マップ作成やフレイル予防に取り組まれたことから、皆さまが今回のテーマについて自分事として捉え、自分自身や家族、そして地域のことを考えるきっかけとなったことが伺えました。



| | |
|-----|---|
| 期 日 | 令和7年7月12日（土） |
| 場 所 | 白兔会館 |
| 主催者 | 修立地区まちづくり協議会 |
| 参加者 | 79名 まち協、町内会、民児協、地区社協、自主防災会、老人クラブ、鳥取市立東中学校地域部 他、地域団体役員等 |
| 講 師 | ①田中顕治（市社協 地域支え合い支援課 参事） ②宮本健一 理学療法士（株式会社ラッキープロデュース） |
| 内 容 | ①防災 × まちづくり ②防災 × フレイル予防 |
| 協 力 | 鳥取東地域包括支援センター |

①防災 × まちづくり『災害を他人ごとではなく「自分ごと」として考える』

令和5年に佐治町で台風7号の災害対応を行った経験から、災害時に命を守るためには、普段から「もしも」を想定した話し合いや地域とのつながりが大切であることをお伝えしました。



②防災 × フレイル予防『フレイルシニア体験』

ご参加の方から12名の体験者を募り、高齢者体験セットを装着して身体が普段よりも動きにくい中での避難と介助（避難支援）を疑似体験していただきました。

「靴がスッと履けない」「足元の障害物が見えない」といった体験から、「履きやすい靴が必要」「しっかり声をかけないと」と様々な気づきが生まれていました。



動きにくさのレベルを3段階に分けてセットを装着し20mの避難時間を計測。介助がある中でも、装着前後で最大2分51秒の差がありました。

②防災 × フレイル予防『いざというときに動ける体づくり』

理学療法士の視点から、いざという時に動けるからだづくりについて実演を交えて講演をしていただきました。

家でできるストレッチなども皆で体験し、中学生から大人まで効果を実感することができました。



参加された方々の声

研修会后すぐにフレイル予防の出前講座や支え愛マップ作成の申し込みがありました！

自分のことだけではなく、周りの人へ気づかいを日頃からしておき、いざとなった時に周りの方を助けられる人でありたいと思う。

支え愛マップの必要性を強く感じた。作成にかかわりたい。フレイル予防、ひとごとではない。継続してフレイル予防、災害時動ける体作りを実践していきたい。災害時、あきらめない気持ちも大切と感じた。

我が町内でもフレイル予防の講座が開催できればと思う。



修立地区文化祭「放哉 防災 来てみんなさい」

文化祭の2日目に体験型の講習会を開催しました。自分がいる場所の危険を視覚的に体感できる災害体験 VR や非常時持ち出し袋の作成体験、いざというときに逃げる事ができる身体づくりについて学びました。

| | |
|-----|--|
| 期 日 | 令和7年10月26日(日) ※文化祭2日目 |
| 場 所 | 山の手体育館 |
| 主 催 | 修立地区まちづくり協議会 |
| 講 師 | ①益田悠生氏(鳥取県自主防災活動アドバイザー) ②宮本健一 理学療法士(株式会社ラッキープロデュース) |

①災害体験 VR、非常時持ち出し袋作成体験

非常時持ち出し袋の作成体験では、リュックの容量や自分が持ち出せる重さを考え、必要な物を厳選しなければならず、皆さま頭を悩ませておられました。



また、他の方が作られたものと比べて考え直したり、家族構成や年齢などによる違いを感じておられました。

②いざとなった時に動ける体づくり

団体交流研修会と同様にその場で身体の状態を聞き、なぜそういった状態になるのか、どのような体操やストレッチが必要なのかを実演を中心に説明されました。



皆さま興味津々で、体験会終了後にも講師に相談する姿が多くみられました。

より詳しくお話しを聞くためにその場でグループを結成し、フレイル予防の出前講座に申し込まれた方々もおられました。



災害に強い体づくり講習会

| | |
|-----|----------------------------|
| 期 日 | 令和7年11月18日(火) |
| 場 所 | 修立地区公民館 |
| 主 催 | 修立地区まちづくり協議会 |
| 参加者 | 24名 |
| 講師 | 宮本健一 理学療法士(株式会社ラッキープロデュース) |

これまでと同様に実演を中心とした講習会を開催しました。団体交流研修会や文化祭に参加された方々や、既にフレイル予防出前講座に申し込まれた方々も多く参加しておられ、地区内でのフレイル予防への意識が高まっていることが感じられる講習会でした。

この日は東包括からも職員が参加し、講習終了後には宮本理学療法士とともに参加者からの相談に応じるなど、住民の皆さまとの顔つなぎの場にもなりました。



支え愛マップ作成

団体交流研修会を皮切りに、修立地区では多くの町内が支え愛マップの作成に取り組み、令和6年度までに作成された町内会も含めると、11町内会中、9町内会が作成済となりました。中には東包括と協働して取り組んだ町内会もあり、住民と専門職の顔の見える関係構築のきっかけにもなっています。

次年度の更新や作成を既に検討しておられる町内会もあり、地区が一体となって防災力の向上や支え合いの体制づくりに向かっていることが実感できます。



令和7年度の作成・更新 (R8.2.28時点)

- ◇新規作成 6町内会 + ふれあい・いきいきサロンでの作成も!
- ◇更 新 1町内会

支え愛マップ作成の様子

作成をする中で「避難所にはお水や食料がみんなの分あるのかな?」「〇年前に買った防災備品、もう使用期限切れてるかも?!」「避難支援ってどうやるの?」といった様々な疑問や気づき生まれ、確認や学ぶ機会の設定や、支援が必要な方とできる方のマッチングなどに活用された町内もありました。



よく知った町内でも新しい発見が多くあり、「他の災害の想定もしよう」と初めて作成をした数日後にもう一度作成。



避難行動や備蓄など様々な疑問が出たため、参加者同士で防災の知識を共有し、総合防災マップでも改めて確認。



支援が必要な方と可能な方の発掘やマッチング。

消火器等の保管場所や使用期限の確認。

防災備品の購入や避難訓練での活用。

フレイル予防出前講座



支え愛マップ作成の前半に実施。代表者への実演では、目に見えて体の状態が変化し、本人も周囲も笑顔になり自然と拍手がおこり、後半のマップ作成もリラックスした雰囲気で行われました。

避難支援体験

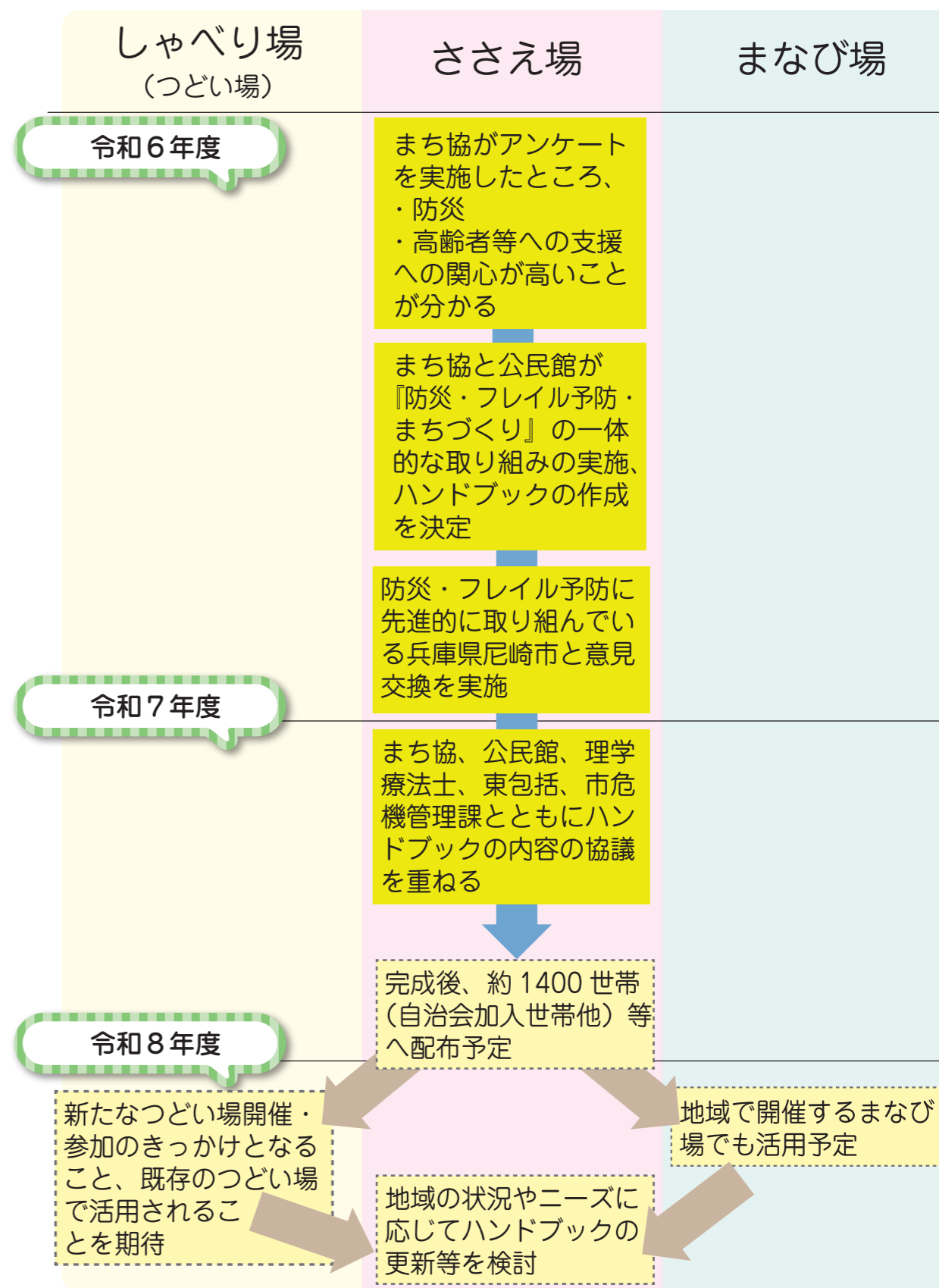


支え愛マップ作成の後半に高齢者疑似体験セットを装着して体験。「足元が見えなくて怖い」「介助はどうするのか」といった声があがりつつ、後半には相手に寄り添った声掛けや介助を実施されていました。

支え愛サイクル

(防災 × フレイル予防 × まちづくり)

(住みごこちのよいまち修立「いつも」と「もしも」のハンドブック)



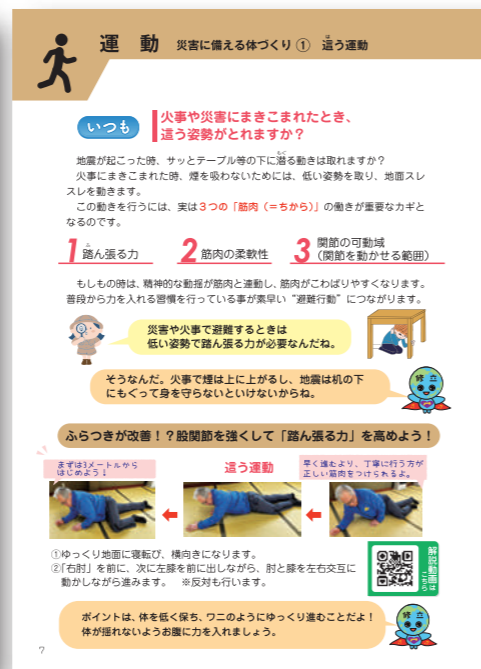
「いつも」と「もしも」のハンドブック

| | |
|-----|------------------------------------|
| 名称 | 「いつも」と「もしも」のハンドブック 住みごごちのよいまち修立 |
| 構成 | A4 24ページ |
| 発行元 | 修立地区まちづくり協議会 修立地区公民館 |
| 発行 | 令和8年3月 |
| 協力 | 宮本理学療法士、市危機管理課、 東包括、市健康づくり推進課 |



近年、いつ・どこで大きな災害が発生しても不思議ではない状況が続いていることから、自分と大切な方の命を守るために「もしも（災害時）」に対し「いつも（平常時）」をどうするかについて分かりやすくお伝えするため、ハンドブックを作成しました。

作成にあたっては多機関と協働し、これまで地区で取り組んできた「防災 × フレイル予防 × まちづくり」の視点を盛り込みました。完成したものは地区へ配布し、皆さまがご家族や周囲の方々と話し合いながら地域が一体となって防災に取り組んでいくための足掛かりとなることが期待されています。



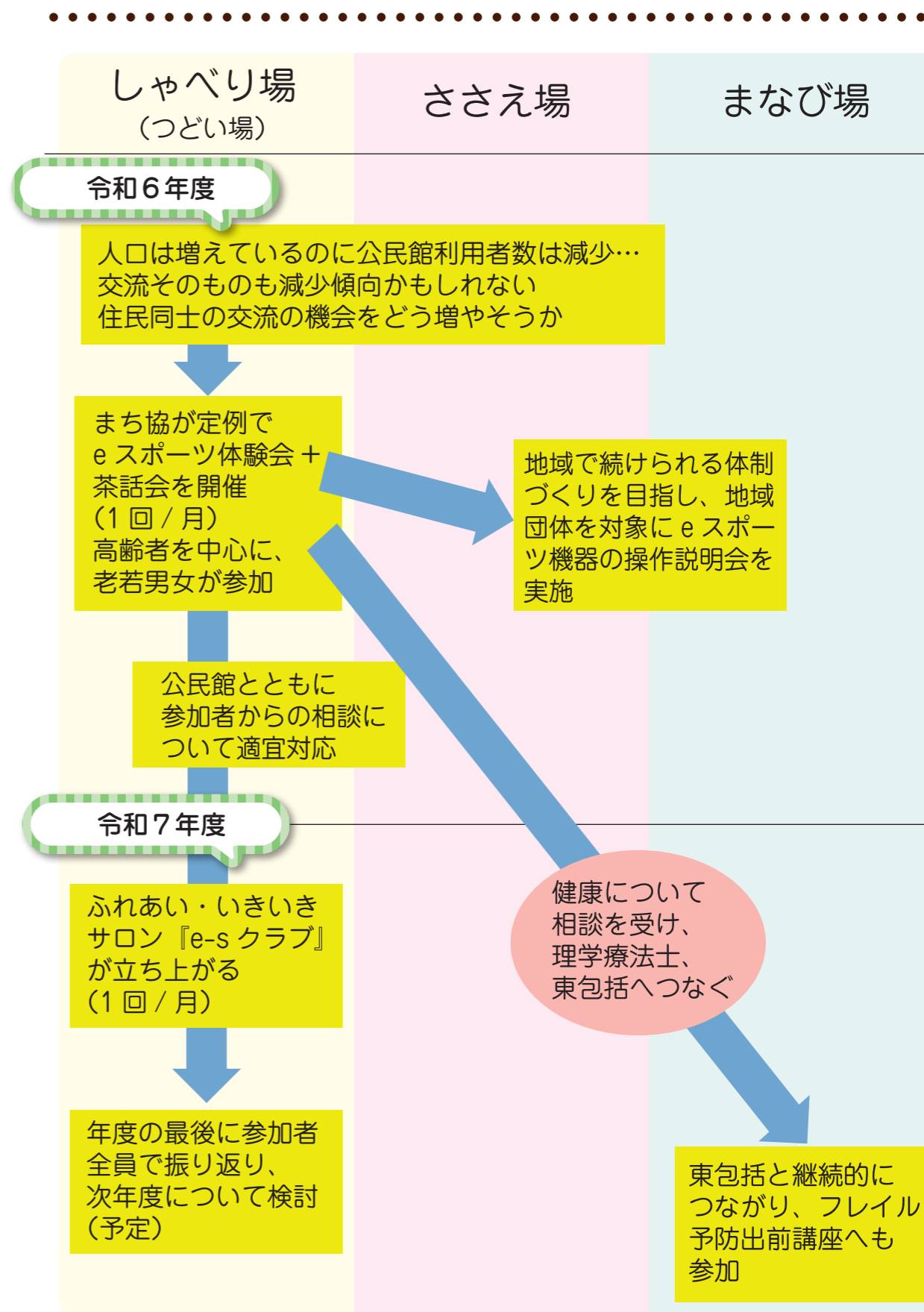
地域イベントでの活用も検討中！

掲載内容

- マイタイムライン ○フェーズフリー ○避難生活 ○災害に備える体づくり
- いつもともしもの食事 ○つながるということ ○暮らしの相談窓口 他

支え愛サイクル

(人口減から人交増へ)



人口減から人交（コミュニケーション）増へ

e-s クラブ（e スポーツ体験会）

人とつながる機会を広げ、居場所づくりにつなげるため、e スポーツを使った多世代交流の場として令和6年10月にスタートしました。

会場には喫茶コーナーもあり、e スポーツとあわせて気軽に休憩やおしゃべりもできます。

この活動は令和6年度はまち協が中心でしたが、参加者から代表者を募り、令和7年4月には「e-s クラブ」として新しくスタートしています。

| | 令和6年度 | 令和7年度 |
|----|---------------------|---------|
| 名称 | e スポーツ体験会 | e-s クラブ |
| 主体 | まちづくり協議会 | 地域住民 |
| 期日 | 毎月第2火曜日 13:30～15:00 | |
| 場所 | 公民館2階 | |



座っていても出来るe スポーツですが、皆さま大きく身体を動かして、汗が出るほど楽しまれています。

参加者は固定ではなく、公民館だよりや口コミをきっかけに新しく来られる方も多くいます。参加者同士で操作方法を教えあうことで自然と交流が生まれ、新たなつどい場へ参加が広がることもあります。



e-s クラブの特徴

○多世代の交流

ときには若い世代が参加し、機材設置の手伝いや、操作の補助などを通じて交流が生まれています。

○気軽に参加できる

誰でも参加可能で、e スポーツを通じて交流を深めることができます。参加者が固定ではなく、1回だけの参加でも、時々でもよい気軽さがあります。

○公民館職員や医療・福祉の専門職とつながる

公民館職員や福祉職が訪問しており、一緒に楽しむ中で顔のみえる関係ができます。



モデル地区事業を通して

地区担当者コメント

令和5年度からの3年間、修立地区を担当する中で本当に多くの方々と出会い、様々な活動をご一緒してきました。特に本事業が動き出した令和6年度からの2年間は、地域の方々と向き合う機会がとて多く、密度の高い日々だったと感じています。

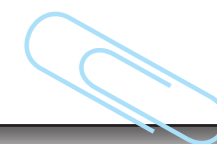
本事業の軸となった「防災 × フレイル予防 × まちづくり」の取り組みは、ほとんど前例がなく、まずは全国の事例を探るところからのスタートでした。

先進地区の尼崎市とリモートで意見交換を行ってからは、修立地区でどのように展開していくのかについて何度も打合せを重ね、令和7年7月には地域団体の皆さまや関係機関と協働して「団体交流研修会」を開催しました。体験を中心とした講演は、参加された多くの方々が災害やフレイルを自分事として捉えるきっかけとなり、多くの町内で住民主体の継続的な活動へとつながっています。

まちづくり協議会と公民館は、取り組みを中心となって進めつつも、決して住民の皆さまに押し付けることなく、「やってみよう」と思えるきっかけづくりを大切にしてくださいました。住民の方々の声を丁寧に受け止め、地域に寄り添い、まちづくりに生かしておられる姿は、私にとって多くの学びとなりました。

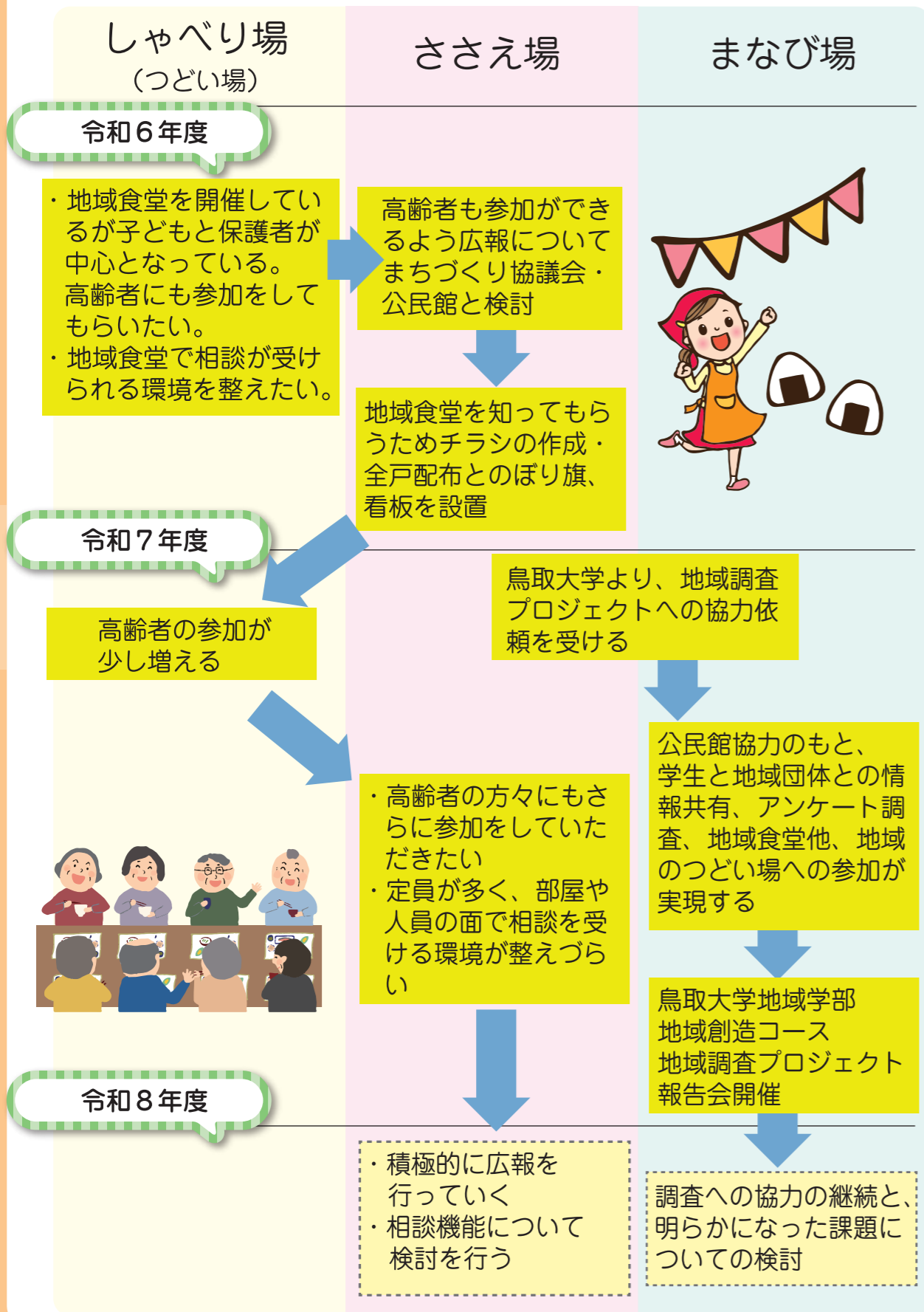
訪問するといつも笑顔で温かく迎え入れてくださった修立地区の皆さま、事業を進めるにあたってご尽力いただいた関係機関の方々に心より感謝を申し上げます。

今後も皆さまと共に地域のことを考え、より「住みごこちのよい修立」へ向かって共に歩んでいけるよう努めてまいります。



支え愛サイクル

(みんなの食堂)



みんなの食堂

| | |
|----|-----------------------|
| 日時 | 偶数月の第2土曜日 11:00～12:30 |
| 主催 | 美保南地区公民館 |
| 場所 | 美保南地区公民館 |
| 対象 | 美保南地区にお住まいの方 |
| 定員 | 100名 |



居場所づくり（孤食・孤独の解消）と交流の場として、令和6年2月24日に発足しました。

当初、小学校へチラシを配布したことから児童や保護者の方々が多く参加しておられます。一方で高齢者の参加は少なく、もっと多世代に利用してもらえるようチラシを作成・全戸配布しました。また、開催していることをわかりやすく、会場に入りやすくするため、当日はのぼりと看板を設置しています。

メインとなっているのは2階の会場ですが、1階も開放しておりどちらでも食事ができます。



🌀 メニューはカレー！

皆さまお腹いっぱい食べて笑顔で帰られます🎵



調理を担当しているのは、食育推進員を中心としたボランティアの皆さまです。6名前後で協力して100人前のカレーを作っておられます。

令和7年度は鳥取大学の学生も地域調査プロジェクトの一環として参加されました。



ボランティアの皆さまは食堂開始時間の11時に間に合うように、朝から調理をしておられます。大忙しの作業ですが、カレーを煮込んでいる時間はつかの間の休憩時間で、椅子に座ってお茶やお菓子を楽しみながら談笑をしておられます。

受付や盛り付けなど、公民館と連携して運営しています。100人前のカレーやご飯を2階へ運ぶ作業は体力勝負ですが、皆さまパワフルにこなしておられます。また、参加者の方々とボランティア・公民館の皆さまが声をかけ合う姿もあります。



現在も友達同士で参加する児童や家族連れの姿が多く見られ、時には開催時間の前から行列ができ、参加者が100名を超えることもあります。高齢者の参加も当初に比べ増えてきてはいますが、さらに多くの方に来ていただけるよう、広報の方法を検討しているところです。

また、公民館としては相談機能や交流の機会についても設けていきたいとの思いがありますが、定員100名の大規模な開催であることから、スペースや人員の面で環境を整えることが難しい状況にあり、今後、みんなの食堂が地域の皆さまの居場所としてどのように展開していくかについても、検討していく予定です。



支え愛サイクル

(地域の困りごと等に関するアンケート)



地域の困りごと等に関するアンケート

まち協が策定する、まちづくり計画の見直しを目的にアンケートを実施しました。令和元年にもまち協立ち上げ当初と同じ内容で実施しましたが、項目が多く見直しが必要なものの絞り込みが難しかったため、今回は項目を限定して作成をしました。

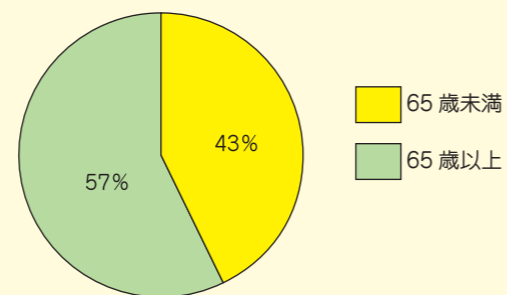
| | |
|----|---------------------------|
| 時期 | 令和7年6月19日～令和7年7月25日 |
| 対象 | 地区内の自治会加入世帯 |
| 回答 | 602世帯 / 1,890世帯 (回収率：32%) |

アンケート結果 (一部抜粋、表現を変更)

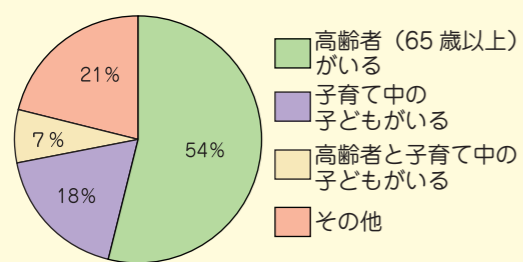
回答者の年齢に大きな差はありませんでしたが、ご高齢の方がいらっしゃる世帯からの回答が中心で、子育て中の家庭は比較的少なめでした。

ただ、親子で暮らす家庭や夫婦だけで暮らす家庭など、幅広い世帯からご回答をいただけており、単身世帯の方も一定数おられました。

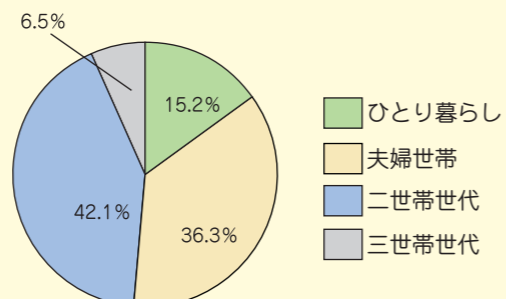
1. 年齢



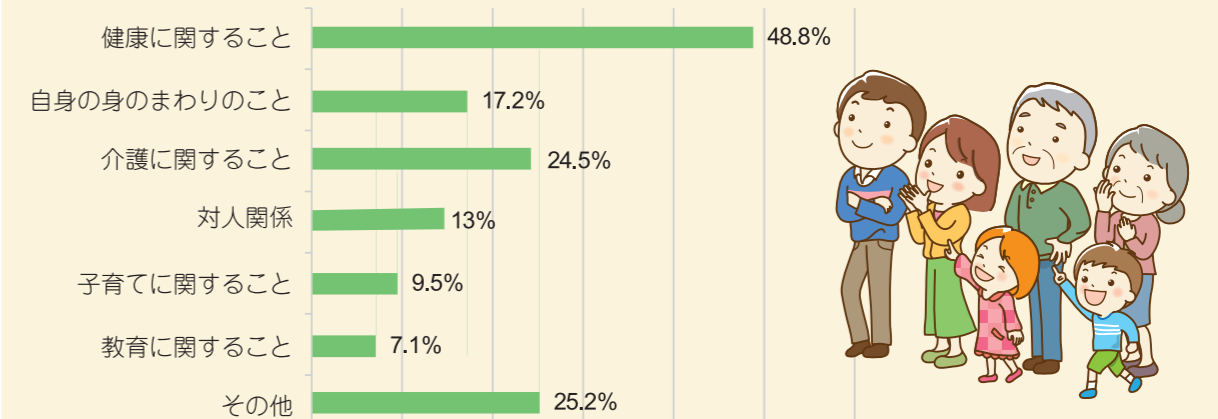
2. 世帯



2. 世帯 (詳細)



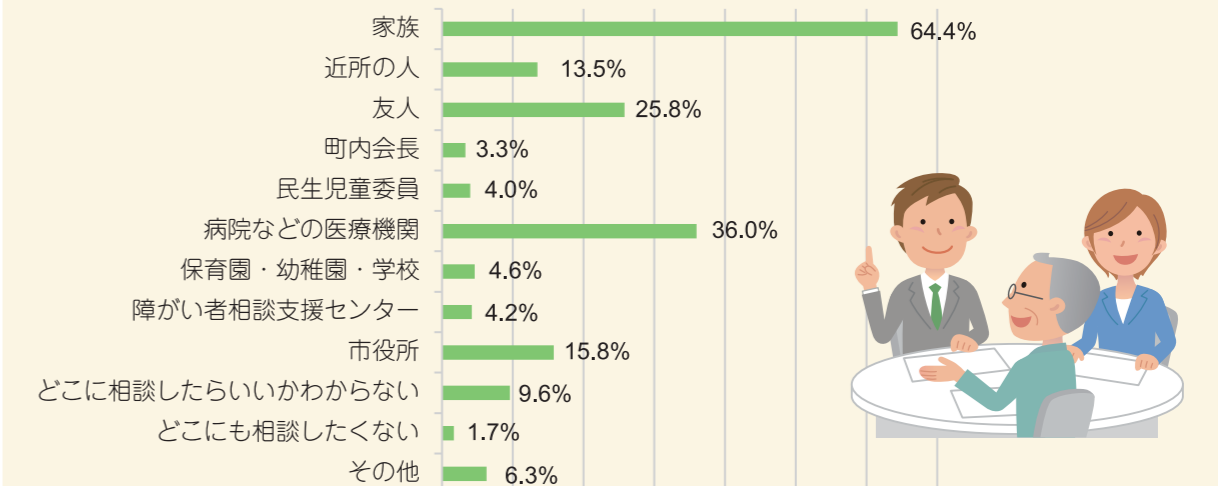
3. 「困っていること」「不安に思っていること」 (複数回答可)



多くの方が気にかけていたのは、やはり健康に関することでした。体調のことや病気への不安を抱えている方が多く、次いで介護に関する心配ごとも目立ちました。また、日々の生活の中で「身の回りのことが大変になってきた」という声や、人との関わり方に悩む声も寄せられています。

子育てや教育に関する不安は比較的少なめでしたが、これは回答者の年代や世帯構成の影響が大きいと考えられます。

4. 「困っていること」「不安に思っていること」等の相談先 (複数回答可)



困ったときに相談する相手としては、「家族」が最も多く挙げられました。次いで病院などの医療機関、友人が続きます。一方で、「どこに相談したらいいのかわからない」という方も一定数おられ、相談先が見つげにくい状況も見えてきました。市役所などの行政機関に相談する人は比較的少なく、相談のハードルや情報の届き方に課題があるのかもしれない。

地区に「あったらいいなあ」「ほしいなあ」と感じているものとしては、健康や福祉、交通の安全や移動のしやすさ、気軽に集まれる場所などが挙げられました。

他にも、子ども達がのびのびと遊べるような環境の整備や空き家の活用に関する事など全部で180件の回答がありました。

また、地域団体への労いやお礼の言葉もありました。

5. 美保南地区のまちづくりを進めるために 「あったらいいなあ」「ほしいなあ」と思うこと（もの）。

健康・福祉（41件）

- ・子どもや高齢者が利用しやすい公園や施設。
- ・イベント等で使えるレンタルベビーカーや車いすの整備。
- ・専門家につないでもらえるなんでも相談ができる窓口。
- ・地域での送迎システム。
- ・100円バスなど公共交通機関を運行してほしい。
- ・身体だけでなく、精神や発達障害のある方も安心して暮らせる地区になしてほしい。



など

安心・安全（31件）

- ・街灯を増やしてほしい。
- ・歩道の整備（ガードレール、グリーンベルト等）を進めてほしい。
- ・自転車の講習を行ってほしい。
- ・住民全体が訓練をする防災訓練を行ってほしい。
- ・防災無線が聞き取りづらい。防災ラジオを全戸に配布してほしい。
- ・堤防をより安全に整備すると安心する。



など

ふれあい・交流（27件）

- ・子どもから高齢者まで多くの人々が気軽に集まることができる場所を作っていただきたい！
- ・有料でも、コーヒー等の提供がありゆっくりできる談話室など。
- ・赤ちゃんも参加しやすい行事があったらいいな。
- ・着なくなった制服や体操服をもらったりあげたりできるシステム。
- ・大人のあいさつ運動。



など



まとめ

今回のアンケートからは、地域の皆さまが「安心して暮らせること」をととても大切にしている様子が伝わってきました。

「困っていること・不安に思っていること」では、年齢を重ねることで感じる健康や介護に関する不安が多く挙がったことで、体調の変化や家族の介護について気にかけている方が多く、日々の中で「この先どうなるだろう」とこれからの生活への心配を感じながら生活をしている方も少なくないということが示されました。

相談先については、家族や友人に頼る方が多い一方で、「どこに相談したらいいかわからない」という声もありました。困ったときに気軽に相談できる場所があることは安心につながるため、相談しやすい環境づくりや、相談先が分かりやすく伝わる工夫が求められていると感じました。

また、「地域にあったらいいな」と挙げられた内容からは、暮らしをもっと安全に、もっと快適にしたいという思いが伝わってきました。



今後の展開

アンケート結果は、令和8年2月に開催されたまちづくり協議会常任委員会にて各種団体役員へ共有されました。

今後はアンケート結果をもとに、主に健康・福祉に関わる地域団体、機関において検討を行い、まちづくり協議会として取り組みが必要で実現が可能なものを事業化していくことを考えておられます。

また以前から課題と考えられていたものについては、既に各団体で取り組みが始まっているものもあります。

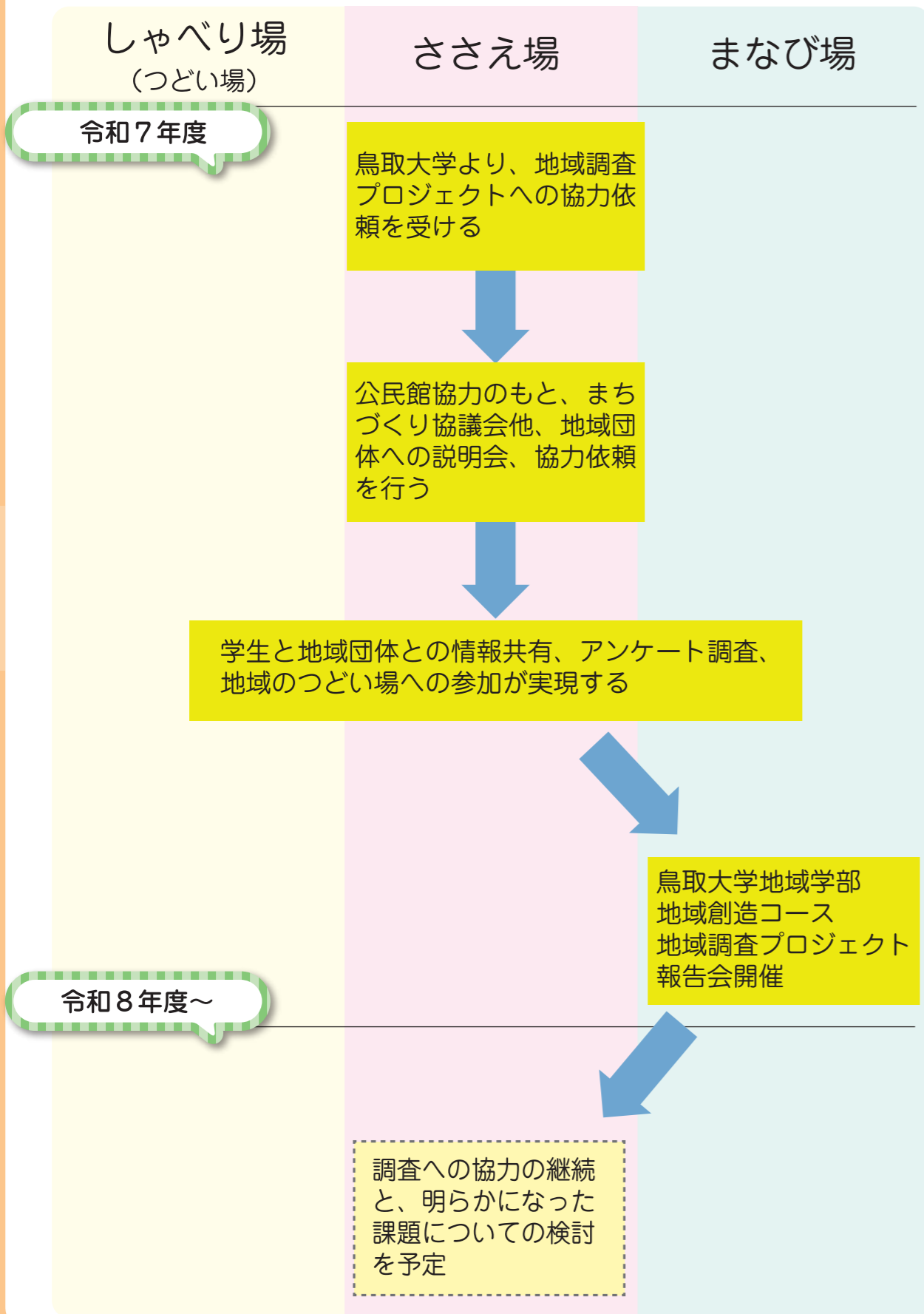
健康・福祉部（予定）

まちづくり協議会、民生児童委員協議会、地区社会福祉協議会、老人クラブ、健康づくり推進協議会、自主防災会連絡協議会、交通安全対策協議会・交通安全協会、公民館、市社協



支え愛サイクル

(鳥取大学 地域学部 地域創造コース 地域調査プロジェクト)



鳥取大学 地域学部 地域創造コース 地域調査プロジェクト

鳥取大学地域学部地域創造コースの必修科目「地域調査プロジェクト」のFグループが調査を進めている鳥取市における地域防災について、鳥大から市社協へ調査へ協力していただける地区との顔つなぎの依頼がありました。「いざという場合に誰も取り残されない地域づくり」について調査し課題を明らかにしていきたいということで、特に水害への不安が大きく、防災への取り組みを積極的に行っておられる美保南地区へ協力の依頼を行ったところ、公民館が窓口となり迅速に地域団体への説明と調査の機会を設けていただきました。

| | |
|----|--|
| 名称 | 鳥取大学 地域学部 地域創造コース 地域調査プロジェクト Fグループ (12名) |
| 内容 | 災害時避難行動要支援者の避難支援に関わる調査と課題の把握 |
| 時期 | 令和7年7月~令和8年3月 |
| 協力 | 公民館、区長会、まち協、地区社協、自主防災会連絡協議会、民児協、老人クラブ 他 |

美保南地区内で実施した調査

- ・地域食堂やグラウンドゴルフなど 様々な地域活動への参加
- ・各種地域団体や福祉専門職へのヒアリング、避難行動要支援者の方々へのアンケート調査



地域の皆さまのご協力のもと、学生が地域行事への参加やヒアリング・アンケート等の調査活動を実施し、令和8年2月にはさざんか会館を会場に、プロジェクト全体の報告会が開催されました。

Fグループは「鳥取市美保南地区における避難行動要支援者支援の現状と課題」と題し、調査し把握した課題について考察と提案を交えて報告をされました。また、3月には美保南地区公民館を会場に調査結果についての現地報告会が開催予定となっています。

自主防災会連絡協議会の取り組み

以前から自主防災会連絡協議会が中心となり積極的に防災への取り組みを進めておられます。令和7年11月には「美保南地区自主防災会連絡協議会合同研修会」を開催し、支え愛マップの作成体験を行いました。

他にも様々な取り組みを実施されており、鳥取大学の地域調査プロジェクトにおいても「今後の取り組みへ活かしていきたい」と意欲的で、地区の防災への取り組みや課題について学生へ共有するなど尽力されました。

美保南地区自主防災会連絡協議会合同研修会

| | |
|-----|------------------------------------|
| 日時 | 令和7年11月16日(日) |
| 主催 | 自主防災会連絡協議会 |
| 参加者 | 30名 防災士、防災リーダー、町区防災会長、地区社協、民児協、公民館 |

町内会で支え愛マップづくりに取り組んでいくきっかけづくりとして、地区内の町内をモデルに、架空の住民を設定して支え愛マップの作成体験を実施しました。

6班に分かれて作成し、完成したものを発表してみると各班に特徴があり、同じ人物や世帯について話し合っているにもかかわらずそれぞれ対応が異なりました。

また、知っているつもりでも実は共有できていない情報等を確認し、周知する機会となりました。

危険な場所や提携している避難場所の共有も行いました。

また、自助や支援を受ける準備も大切であることや、被災後の生活も考えた対策の必要性なども考える機会となりました。



モデル地区事業を通して

地区担当者コメント

令和7年度の1年間、美保南地区を担当させていただきました。携わった期間は決して長くはありませんでしたが、みんなの食堂、サロンなどの集いの場や防災活動への訪問を重ね、地域団体の方々と活動をともにさせていただく中で、地区全体が地域の安全や子どもたちを大切にしながら、日々の活動に力を注いでおられる様子がとても伝わりました。

「地域の困りごと等に関するアンケート」へも、健康や介護についての不安や、街灯や歩道の整備、防災など日々の安心・安全を守るために必要なものの充実を求める回答が多く寄せられたことから、住民の皆さまが「安心して暮らせること」を大切にしておられることがうかがえました。

また、地域団体の皆さまへお礼や労いの言葉が添えられた回答もあり、各団体の取り組みが地区の方々の思いに寄り添い、地域の実情に合わせて進められていることを実感しました。

一方で「どこに相談したらいいかわからない」といった声もあり、支援を必要としている方に情報が届くような工夫や、相談しやすい関係性を育んでいくことが地区担当者としての課題のひとつだと感じております。

アンケート結果については、健康や福祉に関わる地域団体の方々とともに協議を行い、住民の皆さまからいただいたご意見を今後の活動にいかしていきたいと考えております。

最後となりましたが、地域に何うといつでも温かく迎え入れてくださった美保南地区の皆さまに感謝申し上げます。

今後も、だれもが“安心していきいきと暮らせる”「安心・安全で住みよい・魅力ある美保南」に向かって、共に歩んでいけるよう努めてまいります。



**地域の「話し愛・支え愛」推進事業
モデル地区事業 取り組み報告**
(令和3年度～令和7年度)

令和8年3月

編集・発行 社会福祉法人 鳥取市社会福祉協議会
〒680-0845 鳥取市富安二丁目104-2
TEL 0857-24-3180

